

蟹江町歴史民俗資料館

年報

第46冊

令和8年(2026)3月

蟹江町歴史民俗資料館

発刊にあたって

「蟹江町歴史民俗資料館」は、昭和 53 年（1978）11 月 3 日の開館以来、45 年以上にわたり、当町の歴史や民俗に関する資料の収集・調査・研究を進めるとともに、文化財保護行政の中心として役割を果たしてまいりました。長きにわたり当館の活動を支えてくださった皆さまの温かいご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

昭和 55 年に創刊した当館の「年報」も、今回で第 46 冊を迎えました。本冊では、令和 6 年度（2024）に実施した展示事業、教育普及事業、文化財保護事業など、当館の一年間の取組をまとめております。

同年度は、展示活動の充実に加え、子どもから大人まで幅広い世代の方々に参加していただける教育普及事業を大きく推進した一年となりました。新たに「かにえキッズ調査隊」と「はじめての古文書」を実施し、多くの方に郷土の魅力を体験していただくことができました。参加者の皆さまが互いに学び合い、地域の歴史や文化を身近に感じていただけたことは、当館にとって大きな喜びであります。

また、文化財の公開や防火活動、文化財保存活用地域計画に基づく取組も継続して実施し、新たに蟹江町文化財資料データベースを作成しました。地域の文化を未来へつなぐための活動を着実に進めるとともに、須成祭をはじめとする地域の伝統行事や、町内に残る貴重な文化財を守り伝えるため、町民の皆さまとともに歩む姿勢を大切にまいりました。

展示事業においても、町内施設にて出張展示を開催するなど、地域の歴史を多角的に紹介する企画を実施し、多くの方にご来館いただきました。展示を通じて、町の移り変わりや先人の歩みを知り、郷土への愛着を深めていただけたのではないかと感じております。

当館では、これからも郷土の歴史や文化財に親しんでいただけるよう、展示や講座の充実を努めるとともに、地域の皆さまに寄り添う施設であり続けたいと考えております。職員一同、より良い資料館づくりに向けて努力してまいりますので、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和 8 年 3 月吉日

蟹江町教育委員会教育長 服部英生

目次

| | | |
|-----|------------------------------------|---|
| I | 歴史民俗資料館の概要 | 1 |
| 1 | 沿革 | 1 |
| 2 | 施設概要 | 1 |
| (1) | 構造 | 1 |
| (2) | 建築面積 | 1 |
| (3) | 所在地 | 1 |
| (4) | 開館時間 | 1 |
| (5) | 休館日 | 1 |
| (6) | 交通案内 | 2 |
| (7) | 組織 | 2 |
| II | 歴史民俗資料館事業 | 3 |
| 1 | 展示事業 | 3 |
| (1) | 常設展示 | 3 |
| 1) | 企画展示室「蟹江の歴史と文化」・機織コーナー | 3 |
| 2) | 第1展示室「小酒井不木資料室」 | 3 |
| 3) | 第2展示室「川・水と歴史・暮らし」 | 3 |
| 4) | 民俗展示室兼研修室「むかしの生活道具」・図書コーナー | 4 |
| (2) | 企画展示 | 4 |
| 1) | 出張！ちょこっと思い出して昔の蟹江～昭和40年代前半の町並み～ | 4 |
| 2) | 神田鑄蔵と渋沢栄一 | 4 |
| 3) | 出張第2弾！ちょこっと思い出して昔の蟹江～昭和40年代前半の町並み～ | 4 |
| 4) | 昭和のひなまつり | 5 |
| 5) | ちょこっと思い出して昔の蟹江～昭和40年代前半の町並み～ | 5 |
| 6) | 小酒井不木の書跡と蔵書 | 5 |
| 2 | 教育普及事業 | 6 |
| (1) | 講座・学習事業 | 6 |
| 1) | かにえ地域学講座 | 6 |
| 2) | 文化財講演会 | 6 |
| 3) | めざせ！「須成祭マイスター」講座 | 7 |
| 4) | 歴史探訪講座「蟹江城調査隊」 | 8 |
| 5) | はじめての古文書 | 8 |
| 6) | ギャラリートーク（展示解説会） | 9 |

| | |
|---|----|
| (2) 子ども向け学習事業 | 9 |
| 1) 須成祭体験講座 | 9 |
| 2) かにエキッズ調査隊 | 10 |
| (3) 出前・協働事業 | 11 |
| 1) 出前授業 | 11 |
| 2) 出前講座 | 12 |
| 3) 資料館・ガイドボランティア協働事業「ガイドボランティアと蟹江を学ぼう！」 | 14 |
| (4) オンライン・実習事業 | 14 |
| 1) おうちミュージアム | 14 |
| 2) 博物館実習 | 15 |
| 3) インターンシップ | 15 |
| 3 利用状況 | 16 |
| (1) 来館者数 | 16 |
| (2) 視察・見学利用 | 16 |
| (3) 資料貸出 | 17 |
| (4) 特別利用 | 17 |
| Ⅲ 資料管理・調査研究事業 | 18 |
| 1 資料の収集・保管事業 | 18 |
| (1) 収集資料の特色 | 18 |
| (2) 収蔵資料の状況 | 18 |
| (3) 購入・寄贈資料 | 19 |
| 1) 購入資料 | 19 |
| 2) 寄贈資料 | 19 |
| 3) 寄贈図書 | 19 |
| 4) 寄贈者芳名（五十音順、敬称略） | 19 |
| 5) 寄付者芳名（五十音順、敬称略） | 20 |
| 6) 寄託者芳名（五十音順、敬称略） | 20 |
| 2 調査・研究事業 | 20 |
| (1) 文化財指定に関わる関連資料の調査・研究 | 20 |
| (2) 資料館主体の歴史・民俗・自然に関する調査・研究 | 20 |
| (3) 国・県・自治体等からの依頼による調査・研究 | 20 |
| (4) 資料館の意義に理解を示す各位による調査・研究 | 20 |
| 3 情報発信事業 | 21 |
| (1) 蟹江町歴史民俗資料館年報第45冊 | 21 |
| (2) 「蟹江町文化財ガイドマップ 蟹江の文化財」 | 21 |

| | |
|------------------------------------|----|
| (3) 「須成祭の車楽船行事と神葎流し ガイドブック」 | 21 |
| (4) 須成祭児童用パンフレット「知ってみよう！須成祭」 | 21 |
| IV 文化財保護事業 | 22 |
| 1 文化財保護等事業費補助事業 | 22 |
| 2 文化財公開事業 | 23 |
| (1) 文化財出展・公開 | 23 |
| (2) 重要文化財公開 | 23 |
| 3 文化財普及・啓発事業 | 24 |
| 4 文化財保存活用地域計画事業 | 24 |
| (1) 概要 | 24 |
| (2) 蟹江町文化財資料データベース | 25 |
| V 資料編 | 26 |
| 1 展示解説 | 27 |
| 企画展「小酒井不木の書跡と蔵書」 | 27 |
| 2 活動報告 | 33 |
| かにエキップ調査隊活動報告 | 33 |
| 3 調査研究 | 36 |
| 昭和 40 年代の蟹江町全域のデジタル復元図とその分析について | |
| ～生活の基盤と嗜好がクロスする時代を読み込む～（佐藤章） | 36 |
| 蟹江家伝来の甲冑について（花井昂大） | 54 |
| 蟹江家伝来の目の下頬（三浦一郎） | 63 |

I 歴史民俗資料館の概要

1 沿革

蟹江町歴史民俗資料館は、昭和 53 年（1978）に開館した。昭和 51 年の蟹江町役場新庁舎移転に伴い、その跡地の一画に建設され、昭和 44 年開館の蟹江町郷土館を継承する形で開館した。

平成元年（1989）には蟹江町産業文化会館と接続され、同会館内に企画展示室および収蔵庫が設置された。その後、事務所も会館内に移転し、複合施設の一部として機能している。

平成 9 年には旧蟹江家土蔵の寄贈を受け、翌年より別棟収蔵庫として活用してきたが、平成 29 年に蟹江町多世代交流施設「泉人」建設に伴い撤去され、現在に至っている。

2 施設概要

令和 6 年度の施設概要は次のとおりである。

(1) 構造

本館：鉄筋コンクリート造 2 階建て

(2) 建築面積

本館 1 階 241.06 m²

本館 2 階 186.74 m²

産業文化会館 1 階（企画展示室・収蔵庫） 178.78 m²

(3) 所在地

〒497-0040

愛知県海部郡蟹江町城一丁目 214 番地

電話：0567-95-3812

(4) 開館時間

午前 9 時～午後 5 時

(5) 休館日

毎週月曜日

年末年始（12月29日～翌年1月3日）
特別休館日（展示替え等に必要な期間）

(6) 交通案内

JR 関西本線蟹江駅より徒歩約 10 分

近鉄蟹江駅より徒歩約 15 分

蟹江町お散歩バス（祝日・年末年始運休）歴史民俗資料館北バス停より徒歩約 1 分

東名阪自動車道蟹江インターより車で約 7 分

駐車場：約 70 台（蟹江町産業文化会館駐車場）

(7) 組織

所管は蟹江町教育委員会生涯学習課であり、運営は歴史民俗係および文化財保護係が担当している。

令和 6 年度の体制は、館長 1 名（生涯学習課長兼務）、学芸員 2 名、会計年度任用職員 3 名である。

なお、兼務の記載がない職員についても、複合施設の職員として公民館分館事務を担当している。

Ⅱ 歴史民俗資料館事業

歴史民俗資料館事業は、展示事業および教育普及事業を中心に、地域の歴史・文化の理解促進を図ることを目的として実施している。本章では、令和6年度に実施した展示事業、教育普及事業および利用状況の内容を整理し、その成果を報告する。

1 展示事業

展示事業は、地域の歴史・文化に関する資料を公開し、町民および来館者に学習機会を提供することを目的として実施している。常設展示と企画展示を通じ、当館の収蔵資料や調査成果をわかりやすく紹介し、地域文化への理解促進を図っている。

(1) 常設展示

1) 企画展示室「蟹江の歴史と文化」・機織コーナー

蟹江の歴史、産業、祭礼、災害、教育、郷土ゆかりの人物などに関する資料を展示している。特別展・企画展の開催期間中は、特別展・企画展会場として使用している。

また、機織コーナーは、機織染色学習会会員による伝承活動の場として活用している。



2) 第1展示室「小酒井不木資料室」

蟹江町出身で、日本の探偵小説の草分け的存在である小酒井不木に関する資料を展示している。直筆原稿、俳句作品、交友関係を示す書簡、愛用の机などを公開している。

屋外には、不木と深い交流を持った江戸川乱歩揮毫の「不木碑」が設置されている。



3) 第2展示室「川・水と歴史・暮らし」

かつて盛んであった漁業に関する資料や、水郷地帯特有の農具を展示している。また、伊勢湾の要衝であった蟹江城について紹介している。



4) 民俗展示室兼研修室「むかしの生活道具」・図書コーナー

地域独特のかむり風呂をはじめ、階段筆筒、箱膳、火鉢、たばこ盆など、近現代の生活民具を展示している。

併設の図書コーナーは、歴史や民俗についての学習スペースとして活用している。



(2) 企画展示

1) 出張！ちょこっと思い出して昔の蟹江～昭和40年代前半の町並み～

令和6年(2024)5月7日に実施した出前講座に合わせ、昭和40年代前半のデジタル復元地図および写真を展示した。町の変遷への関心を高め、資料提供をお願いすることを目的として開催した。



期間 令和6年4月27日(土)～6月2日(日)

場所 蟹江町多世代交流施設「泉人」3階展望ロビー

2) 神田鐳蔵と渋沢栄一

令和6年(2024)の新紙幣発行を契機として、新一万円札の肖像に採用された渋沢栄一と交流のあった神田鐳蔵の関わりを紹介し、その功績への理解を深めることを目的として開催した。



期間 令和6年8月15日(土)～令和7年3月2日(日)

場所 蟹江町産業文化会館1階ロビー

3) 出張第2弾！ちょこっと思い出して昔の蟹江～昭和40年代前半の町並み～

「泉人」での展示が好評であったことから、図書館においても継続して展示を行い、さらなる資料提供をお願いすることを目的として開催した。



期間 令和6年(2024)12月14日(土)～令和7年1月29日(水)

場所 蟹江町図書館 2階ギャラリー

4) 昭和のひなまつり

昭和初期・昭和30年代・昭和50年代の雛人形と各時代の写真を展示し、昭和期における雛人形と世相の移り変わりを紹介した。また、本展示は「ひなまつりスタンプラリー」参加館として実施した。

期間 令和7年(2025)2月1日(土)～3月2日(日)

場所 企画展示室



5) ちょこっと思い出して昔の蟹江～昭和40年代前半の町並み～

令和6年度に実施した展示で寄せられた情報・資料を公開し、さらなる資料提供をお願いすることを目的として開催した。

期間 令和7年(2025)2月4日(火)～3月16日(日)

場所 蟹江町産業文化会館 1階ロビー



6) 小酒井不木の書跡と蔵書

令和3年度に愛知医科大学から「小酒井不木文庫」の寄贈を受け、令和5年度には小酒井不木草稿『タナトプシス』を購入したことから、これらの資料を公開し、小酒井不木への理解と関心を深めることを目的として開催した。また、令和2年度より制作しているショートムービー「小酒井不木ミステリー短編シリーズ」も併せて公開した。

期間 令和7年(2025)3月29日(土)～5月11日(日)

場所 企画展示室



2 教育普及事業

教育普及事業は、町民が地域の歴史・文化を学ぶ機会を広く提供し、郷土への理解と関心を深めることを目的として実施している。講座、体験活動、出前授業、オンライン発信など、多様な学習機会を展開している。

(1) 講座・学習事業

1) かにえ地域学講座

地域の歴史・地理・文化について、講義と現地見学を組み合わせる体系的に学ぶ講座である。参加者が地域の魅力を再発見し、郷土理解を深めることを目的としている。

対象 18歳以上

参加費 400円（保険料等）



3月15日 蟹江町産業文化会館にて

| 回 | 日時 | 内容 | 参加者 |
|----|-------------------------|---|-----|
| 1 | 5月18日（土） 9:30～11:30 | オリエンテーション・地図からみる蟹江町の変遷 場所 蟹江町産業文化会館 | 13人 |
| 2 | 9月21日（土） 9:30～11:30 | 蟹江本町村絵図の「古堤通り」の散策 場所 蟹江町産業文化会館、近鉄蟹江駅南地区 | 8人 |
| 3 | 11月16日（土） 9:30～11:30 | 昭和40年代の町並みと生活 場所 蟹江町産業文化会館 | 15人 |
| 4 | 3月15日（土） 9:30～11:30 | 企画展「ちょこっと思いでして 昔の蟹江～昭和40年代の町並み～」の見学および昔の海部地域の店舗のマッチについて 場所 蟹江町産業文化会館 | 16人 |
| 合計 | | | 52人 |

2) 文化財講演会

専門家による講演を通じ、文化財や歴史に関する知識を深め探究する機会を提供する事業である。研究成果や地域文化の背景を学ぶことで、文化財への関心と理解を高めることを目的としている。

対象 一般町民



参加費 無料

| 日時 | 内容 | 参加者 |
|---------------------------|--|-----|
| 2月11日(火・祝) 13:30~15:30 | 薦屋重三郎の浄瑠璃本出版と名古屋の出版文化 場所 蟹江町産業文化会館 講師 安田文吉氏(南山大学名誉教授・東海学園大学客員教授) | 70人 |

3) めざせ! 「須成祭マイスター」講座

須成祭の歴史・行事・技術を体系的に学び、祭りについて語ることでできる人材を育成する講座である。地域の伝統を支える担い手の育成を目的としている。



7月27日 富吉建速神社・八劔社にて

対象 中学生以上

参加費 500円(保険料等)

| 回 | 日時 | 内容 | 参加者 |
|----|-------------------------|--|-----|
| 1 | 6月15日(土) 9:30~11:30 | ガイダンス・須成祭の概要について 場所 蟹江町産業文化会館 | 7人 |
| 2 | 6月29日(土) 9:30~11:30 | 須成祭の行事について 場所 蟹江町産業文化会館 | 5人 |
| 3 | 7月27日(土) 9:30~11:30 | 葎刈のちまき作り体験 場所 富吉建速神社・八劔社、須成公民館 講師 須成文化財保護委員会 | 1人 |
| 4 | 8月3日(土) 15:30~16:30 | 宵祭直前の現地を歩こう 場所 富吉建速神社・八劔社、観光交流センター「祭人」ほか | 4人 |
| 5 | 9月7日(土) 9:30~11:30 | 須成祭の歴史について 場所 龍照院、富吉建速神社・八劔社 協力 かにえガイドボランティア夢案内人 | 3人 |
| 6 | 10月19日(土) 9:30~11:30 | 認定試験 場所 蟹江町産業文化会館 | 7人 |
| 合計 | | | 27人 |

4) 歴史探訪講座「蟹江城調査隊」

蟹江城や蟹江合戦に関する講義と現地調査を通じ、地域の歴史を深く学び探究する講座である。参加者が史跡の価値を理解し、文化財保護への意識を高めることを目的としている。



8月24日 蟹江新田地区にて

対象 18歳以上

参加費 400円（保険料等）

| 回 | 日時 | 内容 | 参加者 |
|----|-------------------------|--|-----|
| 1 | 5月25日（土） 9:30～11:30 | 蟹江城と蟹江合戦の概要および蟹江城址公園周辺のフィールドワーク 場所 蟹江町産業文化会館、蟹江城址公園周辺 | 11人 |
| 2 | 8月24日（土） 9:30～11:30 | 蟹江城の実情に迫れるところまで迫ろう！ 場所 蟹江町産業文化会館 | 7人 |
| 3 | 10月26日（土） 9:30～11:30 | 下市場城を探ろう！ 場所 蟹江町産業文化会館 | 11人 |
| 4 | 2月22日（土） 9:30～11:30 | 大野城と山口重政 場所 蟹江町産業文化会館 | 10人 |
| 合計 | | | 39人 |

5) はじめての古文書

古文書の読み方を基礎から学び、郷土の歴史資料に親しむ講座である。参加者が歴史資料を自ら読み解く力を身につけ、地域の歴史について理解を深めることを目的としている。



5月18日 蟹江町産業文化会館にて

対象 18歳以上

参加費 500円（テキスト代等）

| 回 | 日時 | 内容 | 参加者 |
|---|-------------------------|-----------------------------------|-----|
| 1 | 5月18日（土） 13:30～15:00 | 百人一首を読んでみよう 場所 蟹江町産業文化会館 | 24人 |
| 2 | 7月20日（土） 13:30～15:00 | 江戸時代の手習い本を読んでみよう① 場所 蟹江町産業文化会館 | 17人 |

| | | | |
|-----|--------------------------|------------------------------------|------|
| 3 | 9月21日（土） 13:30～15:00 | 江戸時代の手習い本を読んでもみよう② 場所 蟹江町産業文化会館 | 20人 |
| 4 | 11月16日（土） 13:30～15:00 | 江戸時代の手習い本を読んでもみよう③ 場所 蟹江町産業文化会館 | 19人 |
| 5 | 3月15日（土） 13:30～15:00 | 江戸時代の古文書を読んでもみよう 場所 蟹江町産業文化会館 | 20人 |
| 合 計 | | | 100人 |

6) ギャラリートーク（展示解説会）

展示内容への理解を深める学習機会として、学芸員が展示資料の背景や調査の過程、展示構成の意図などを解説するギャラリートークを行っている。来館者が展示内容を体系的に学べるようにすることを目的としている。



3月8日 蟹江町産業文化会館にて

対象 どなたでも

参加費 無料

| 回 | 日 時 | 内 容 | 参加者 |
|-----|--------------------------|---|-----|
| 1 | 12月25日（水） 14:00～15:00 | 出張第2弾！ちょこっと思いで昔の蟹江～昭和40年代前半の町並み～ 場所 蟹江町図書館 2階学習室 | 11人 |
| 2 | 3月8日（土） 14:00～15:00 | ちょこっと思いで昔の蟹江～昭和40年代前半の町並み～ 場所 蟹江町産業文化会館 1階ロビー | 12人 |
| 合 計 | | | 23人 |

(2) 子ども向け学習事業

1) 須成祭体験講座

須成祭に関する制作体験や学習を通じ、低学年児童が祭礼文化に親しむ講座である。祭礼の意味や地域との関わりを理解し、文化継承への関心を高めることを目的としている。



対象 小学校1～3年生

参加費 200円（保険料等）

| 日 時 | 内 容 | 参加者 |
|------------------------|--|-----|
| 7月23日（火） 9:30～11:30 | 須成祭の「梅花」をつくってみよう！ 場所 須成公民館 講師 須成文化財保護委員会 | 7人 |

2) かにエキッズ調査隊

小学生が町の歴史・文化・自然を体験的に学ぶ講座である。現地調査や制作活動を通じ、郷土への誇りや地域社会の一員としての自覚を育むことを目的としている。

この講座では、蟹江町内外の中学生以上を対象に学習補助サポーターを募集し、参加者と連



8月23日 蟹江新田地区にて

携・協働しながら活動を進めている。サポートを通じて視野が広がり、地域理解の深化やキャリア形成にもつながる取組となっている。

対象 小学校4～6年生

参加費 2,500円（保険料・昼食代等）

| 回 | 日 時 | 内 容 | 参加者 | サポーター |
|-----|------------------------|---|-----|-------|
| 1 | 7月6日（土） 9:30～14:00 | 蟹江町のいちばん古い場所に行ってみよう！ 場所 蟹江町産業文化会館および観光交流センター「祭人」ほか | 16人 | 8人 |
| 2 | 7月13日（土） 9:30～14:00 | えっ！京都からあの人が蟹江町に来たの！？ 場所 蟹江町産業文化会館および愛西市、弥富市 | 13人 | 4人 |
| 3 | 7月27日（土） 9:00～14:00 | 須成祭の“ちまき作り”体験をしてみよう！ 場所 蟹江町産業文化会館および須成公民館 | 13人 | 6人 |
| 4 | 8月9日（金） 9:30～14:00 | むかしむかし、蟹江にお城がありました！ 場所 蟹江町産業文化会館 | 10人 | 6人 |
| 5 | 8月23日（金） 9:30～14:00 | 海からたんぼへ！？江戸時代の新田開発 場所 蟹江町産業文化会館および舟入・蟹江新田・鍋蓋新田地区 | 13人 | 2人 |
| 6 | 8月30日（金） 9:30～14:00 | 舟入漁港と伊勢湾台風 場所 蟹江町産業文化会館および舟入地区 | 中止 | 中止 |
| 合 計 | | | 65人 | 26人 |

(3) 出前・協働事業

1) 出前授業

学校に職員が出向き、郷土の歴史・文化・防災などをテーマに授業を行う事業である。児童生徒が地域の特色を学び、身近な文化財や歴史への探究心を高めることを目的としている。



7月12日 舟入小学校にて

対象 町内の小中学校

参加費 無料

メニュー

| | テーマ | 内容 |
|----|----------------------|--|
| 1 | 須成祭について | 須成祭の由来や行事、見どころを写真や映像で紹介し、地域に受け継がれる祭礼文化の価値を学ぶ。 |
| 2 | 蟹江の祭りについて | 町内の祭礼を写真で紹介し、身近な伝統行事の特色と地域文化との深い結びつきを理解し学ぶ。 |
| 3 | 蟹江の歴史 | 蟹江の成り立ちと歴史を、地形や環境の特色とあわせてたどり、海だった時代からの変遷を総合的に学ぶ。 |
| 4 | 蟹江のまちのうつりかわり | 古地図や絵図、写真と現在の様子を比較し、地形や町並みの変化を読み取り、地域の歴史と地理を深く理解する。 |
| 5 | 伊勢湾台風について ～災害に学ぶ～ | 伊勢湾台風の被害状況を知り、蟹江の地形的特徴を踏まえて、防災の重要性と地域の災害史について考え学ぶ。 |
| 6 | 蟹江城について | 蟹江城について知識を深め、小牧・長久手の戦いの一部である蟹江合戦の経過を学び、戦国期の地域史を理解する。 |
| 7 | 江戸時代の蟹江の人々の暮らし | 江戸時代の絵図や生活道具を用いて、当時の人々の暮らしを具体的に学び、地域に根付いた生活文化の特徴を理解する。 |
| 8 | 昔の暮らし・昔の道具 | 昔の生活道具や遊びに触れ、時代による暮らしの移り変わりを体験的に学び、生活文化の変化を実感し理解を深める。 |
| 9 | 蟹江の郷土食 | 蟹江の郷土食とその背景を紹介し、食文化が地域の環境や歴史とどのように結びついてきたかを理解し深く学ぶ。 |
| 10 | 盛んだった漁業について | 昭和30年代まで盛んだった漁業の漁法や漁具、捕れた魚、衰退の背景を学び、水郷地帯としての地域性を理解する。 |
| 11 | 小酒井不木ってどんな人？ | 蟹江町出身の小酒井不木の人物像と作品を紹介し、医学者・探偵小説家・俳人としての多面的な活躍と功績を学ぶ。 |

| | | |
|----|--------|---|
| 12 | 蟹江の文化財 | 須成祭や龍照院の十一面観音立像などの文化財を紹介し、蟹江町に残る貴重な文化遺産と身近な文化財について学ぶ。 |
|----|--------|---|

実績

| 回 | 日時 | 内容 | 参加者 |
|----|--------------------------|------------------------------|-----------------|
| 1 | 7月10日(水) 11:40~12:25 | 蟹江のまちのうつりかわりについて 場所 舟入小学校 | 舟入小学校 3年 5人 |
| 2 | 7月12日(金) 14:55~15:40 | 蟹江の郷土食について 場所 舟入小学校 | 舟入小学校 3年 6人 |
| 3 | 11月8日(金) 10:45~11:30 | 須成祭について 場所 舟入小学校 | 舟入小学校 4年 9人 |
| 4 | 12月11日(水) 11:40~12:25 | 昔の暮らし・昔の道具 場所 舟入小学校 | 舟入小学校 3年 6人 |
| 5 | 12月18日(水) 11:40~12:25 | 須成祭について 場所 舟入小学校 | 舟入小学校 3年 6人 |
| 6 | 1月29日(水) 9:45~12:30 | 昔の蟹江をしらべてみよう 場所 蟹江小学校 | 蟹江小学校 3年 97人 |
| 合計 | | | 129人 |

2) 出前講座

地域団体の要望に応じ、町の歴史・文化・祭礼などを解説する講座である。住民が郷土の成り立ちや文化の背景を理解し、地域への愛着を深めることを目的としている。

対象 蟹江の歴史や文化を学びたいという住民グループ・団体（5名以上）

参加費 無料



5月7日 蟹江町多世代交流施設「泉人」にて

メニュー

| | テーマ | 内容 |
|---|----------|---|
| 1 | 蟹江の歴史と文化 | 蟹江の歴史と文化の概要を、地形や環境の特色とあわせて整理し、地域の歩みを総合的に学ぶ。 |
| 2 | 蟹江城と蟹江合戦 | 蟹江城の役割と蟹江合戦の経過をたどり、戦国期における地域史の特徴と背景を理解する。 |

| | | |
|----|-------------------|---|
| 3 | 地図と写真でみるまちのうつりかわり | 古地図や絵図、写真と現在の地図を比較し、町並みや地形の変化を読み取り、地域の歴史と地理を深く学ぶ。 |
| 4 | 須成祭について | 須成祭の由来や行事、見どころを紹介し、地域に受け継がれる祭礼文化の歴史的意義と価値を学ぶ。 |
| 5 | 蟹江の祭りについて | 町内の祭礼を写真で紹介し、伝統行事の特色と地域文化との結びつきを理解し、地域への関心を深める。 |
| 6 | 蟹江の郷土食について | 蟹江の郷土食とその背景を紹介し、食文化が地域の環境や歴史とどのように結びついてきたかを学ぶ。 |
| 7 | 盛んだった漁業について | 昭和30年代まで盛んだった漁業の実態と衰退の背景を学び、水郷地帯としての地域性を理解する。 |
| 8 | 小酒井不木について | 小酒井不木の生涯と作品を紹介し、医学・文学・俳句の分野で示した功績と多面的な魅力を学ぶ。 |
| 9 | 郷土ゆかりの偉人について | 小酒井不木や神田鑄蔵など郷土ゆかりの文化人の功績と町との関わりを紹介し、地域の誇りと文化的価値を学ぶ。 |
| 10 | 歴史民俗資料館展示解説 | 資料館の企画展・特別展・常設展示を学芸員が解説し、展示資料の背景や魅力を理解し、学びを深める。 |

実績

| 回 | 日時 | 内容 | 参加者 |
|----|--------------------------|--|----------------------------|
| 1 | 4月19日(金) 11:00~12:00 | 蟹江町の歴史 場所 北之町公民館 | 北之町老人クラブ北老会 28人 |
| 2 | 5月7日(火) 10:30~11:30 | 昭和30、40年代の蟹江町の町並みについて 場所 蟹江町多世代交流施設「泉人」 | 蟹江町社会福祉協議会 19人 |
| 3 | 5月16日(水) 10:00~12:00 | 蟹江の歴史と文化、蟹江城と蟹江合戦の概要 場所 富吉公民館 | 富吉健康サロンの会(いきいき100歳塾) 8人 |
| 4 | 6月1日(土) 13:00~14:30 | ちょこっと思い出して蟹江の歴史~昭和40年代前半の町並み~ 場所 北之町公民館 | ふれあいライブラリー北之町 17人 |
| 5 | 7月3日(水) 10:00~12:00 | 地図と写真で見るまちのうつりかわり 場所 南蟹江団地集会所 | 友愛みなみ 22人 |
| 6 | 10月18日(金) 14:25~15:15 | 農業と生活 場所 愛知県立南陽高等学校 | 愛知県立南陽高等学校 19人 |
| 合計 | | | 103人 |

3) 資料館・ガイドボランティア協働事業「ガイドボランティアと蟹江を学ぼう！」

かにえガイドボランティア^{ゆめあなびと}夢案内人と町内を巡り、地域の歴史文化を楽しく学ぶ講座である。住民が郷土の魅力を再認識し、地域活動への参加意欲を高めることを目的としている。



9月14日 蟹江町産業文化会館にて

対象 どなたでも（未就学児は保護者同伴）

参加費 400円（保険料等）

| 回 | 日時 | 内容 | 参加者 |
|----|------------------------|--|-----|
| 1 | 6月8日（土） 9:30～11:30 | 新撰組隊士佐野七五三之助を偲ぼう 場所 龍照院、富吉建速神社・八劔社 | 13人 |
| 2 | 9月14日（土） 9:30～11:30 | 郷土料理を味わってみよう 場所 蟹江町産業文化会館 協力 湯元館 | 14人 |
| 3 | 12月7日（土） 9:30～11:30 | 小酒井不木のミステリーを体験 場所 蟹江町産業文化会館 | 12人 |
| 4 | 3月8日（土） 9:30～11:30 | 蟹江の町並みを探検と1年のまとめ 場所 蟹江町産業文化会館 | 11人 |
| 合計 | | | 50人 |

(4) オンライン・実習事業

1) おうちミュージアム

北海道博物館が提唱した取組であり、自宅で楽しめる学習コンテンツをオンラインで発信する取組である。子どもたちが家庭でも歴史や文化に触れられる機会を提供し、継続的な学びを支援することを目的としている。

| 回 | 内容 |
|---|-----------|
| 1 | 「晴明塚」について |
| 2 | 神田鑄蔵と渋沢栄一 |
| 3 | 蟹江町と伊勢湾台風 |
| 4 | 蟹江の橋について |



蟹江町 HP 「おうちミュージアム」

<https://www.town.kanie.aichi.jp/site/ouchi/>

2) 博物館実習

学芸員資格取得を目指す学生に対し、資料館業務を実地で学ぶ機会を提供する事業である。展示・収蔵・調査などの実務を体験し、専門的知識と技能の習得を図ることを目的としている。

対象 学芸員養成課程履修者

| 回 | 日時 | 内容 | 実習生 |
|---|------------------------|---|-----|
| 1 | 8月27日(火) 9:00~16:00 | オリエンテーション、資料館の業務と学芸員の業務について、蟹江町の文化財について | 1人 |
| 2 | 8月28日(水) 9:00~16:00 | 事業の企画・立案について、資料の収集・保管について | 1人 |
| 3 | 8月29日(木) 9:00~16:00 | 資料の取扱いについて | 1人 |
| 4 | 9月3日(火) 9:00~16:00 | 展示活動について | 1人 |
| 5 | 9月7日(土) 9:00~16:00 | 教育普及事業について、まとめ | 1人 |

3) インターンシップ

蟹江町役場へのインターンシップ参加者の中から、資料館業務の体験を希望する学生を受け入れ、実務を学ぶ機会を提供する事業である。文化財や資料館運営への理解を深め、将来の専門人材育成に寄与することを目的としている。

対象 インターンシップ参加者

| 回 | 日時 | 内容 | 参加者 |
|---|------------------------|--------------------|-----|
| 1 | 8月14日(金) 9:00~16:00 | 文化財保護業務補助、資料整理業務補助 | 1人 |
| 2 | 8月15日(土) 9:00~16:00 | 展示業務補助 | 1人 |

3 利用状況

利用状況は、資料館がどのように利用されているかを示すものであり、来館者数、視察・見学利用、資料貸出、特別利用の4項目に整理している。展示事業や教育普及事業とあわせて、資料館の活動状況を把握するための基礎資料として位置づけている。

(1) 来館者数

令和6年度の来館者数は次のとおりである。

| 月 | 開館日数 | 来館者 | 1日あたりの来館者 |
|-----|------|--------|-----------|
| 4月 | 25日 | 252人 | 10.08人 |
| 5月 | 27日 | 611人 | 22.62人 |
| 6月 | 26日 | 387人 | 14.88人 |
| 7月 | 26日 | 407人 | 15.65人 |
| 8月 | 27日 | 331人 | 12.25人 |
| 9月 | 25日 | 389人 | 15.56人 |
| 10月 | 26日 | 296人 | 11.38人 |
| 11月 | 26日 | 352人 | 13.53人 |
| 12月 | 24日 | 278人 | 11.58人 |
| 1月 | 24日 | 255人 | 10.62人 |
| 2月 | 24日 | 549人 | 22.87人 |
| 3月 | 25日 | 321人 | 12.84人 |
| 合計 | 305日 | 4,428人 | 14.51人 |

(2) 視察・見学利用

学校等からの視察・見学の受け入れを行い、地域学習の場として活用された。令和6年度は小学校の社会科学習の一環として利用があり、展示資料を通じて郷土の歴史理解を深める機会となった。

| 回 | 日程 | 団体名 | 参加者 |
|---|---------|-------|-----|
| 1 | 2月6日(火) | 舟入小学校 | 10人 |

(3) 資料貸出

展示や学習活動を支援するため、資料の貸出を行った。地域施設との連携により、文化財や歴史資料を広く活用する取組が進んだ。

| 回 | 資料名 | 貸出先 |
|---|---------------------|-----------------|
| 1 | 反物掛け | 蟹江町観光交流センター「祭人」 |
| 2 | レコード（「新蟹江音頭」「蟹江讃歌」） | 中瀬シニア会・西之森詩吟クラブ |

(4) 特別利用

資料の展示利用、刊行物掲載、調査研究など、特別な目的での利用申請に基づき、資料の提供を行った。

| 回 | 資料名 | 目的 | 申請者 |
|----|-------------------|-------|-----------------|
| 1 | 掛軸「蟹江町戦没者之零位」 | 式典で使用 | 蟹江町遺族会 |
| 2 | 昭和40年代の須成祭写真 | 個人利用 | 個人 |
| 3 | 須成祭朝祭写真 | 刊行物掲載 | 蟹江町観光協会 |
| 4 | 昭和40年代復元図および写真データ | 展示利用 | 蟹江町商工会観光部会 |
| 5 | 資料館所属写真・戦争関連 | HP掲載 | 政策推進課長 |
| 6 | 須成祭朝祭写真 | 刊行物掲載 | 蟹江町観光協会 |
| 7 | 広報かにえNo. 91、蟹江町全図 | 個人利用 | 個人 |
| 8 | 「蟹江城址」石碑写真 | 刊行物掲載 | 長久手市郷土史研究会 |
| 9 | 須成祭写真 | 調査研究 | 個人 |
| 10 | 「海東郡須成村草薙」写真 | 刊行物掲載 | 名古屋市教育委員会文化財保護課 |
| 11 | 須成祭写真データ | 刊行物掲載 | 食品衛生協会津島支部 |
| 12 | 小酒井不木肖像写真 | 刊行物掲載 | 中日新聞社 |

Ⅲ 資料管理・調査研究事業

資資料管理・調査研究事業は、資料の収集・保管、調査・研究、情報発信を通じて、地域の歴史・民俗・文化財の保存と活用を支える基盤的な事業として実施している。本章では、令和6年度に行った資料管理および調査研究に関する取組を整理する。

1 資料の収集・保管事業

資料の収集・保管事業は、地域の歴史・民俗・文化を後世に伝えるための基盤となるものであり、町内に残る歴史資料・民俗資料の収集、整理、保存環境の維持に努めている。

(1) 収集資料の特色

当館の収集資料は、木曾川デルタ地帯南部に位置する海拔ゼロメートル地帯の水郷に関連するものが多く、以下の資料を中心に収集している。

- ・淡水域および近海の海水域における漁労資料
- ・低湿地特有の農具
- ・水上交通に関する資料
- ・醸造用具
- ・新田開発を示す古文書
- ・郷土ゆかりの著名人に関する資料
- ・戦後の生活・世相を反映した資料

(2) 収蔵資料の状況

令和6年度までに収集・保管した収蔵資料の状況は次のとおりである。また、平成25年度より蟹江家から多数の資料を受け入れ、整理を進めている。

| 分 類 | 所蔵資料 | | | 寄託 |
|---------------|--------|---------|-------|----|
| | 令和5年度末 | 令和6年度収蔵 | 計 | |
| 歴史・資料に関するもの | 2,304 | 12 | 2,316 | 20 |
| 衣食住に関するもの | 1,077 | 3 | 1,080 | 0 |
| 生産・生業に関するもの | 497 | 2 | 499 | 0 |
| 交通運輸・通信に関するもの | 119 | 1 | 120 | 0 |
| 交易に関するもの | 183 | 0 | 183 | 0 |
| 社会生活に関するもの | 236 | 5 | 241 | 9 |

| | | | | |
|---------------|-------|----|-------|----|
| 信仰に関するもの | 39 | 0 | 39 | 0 |
| 民俗・知識に関するもの | 134 | 0 | 134 | 1 |
| 民俗芸能・娯楽に関するもの | 114 | 0 | 114 | 1 |
| 考古に関するもの | 11 | 0 | 11 | 0 |
| その他 | 265 | 3 | 268 | 7 |
| 計 | 4,979 | 26 | 5,005 | 38 |

(3) 購入・寄贈資料

1) 購入資料

宇佐美江中掛軸など、9点を購入した。

2) 寄贈資料

マッチ箱など、23点の寄贈があった。

3) 寄贈図書

107点の寄贈があった。

4) 寄贈者芳名（五十音順、敬称略）

あいち朝日遺跡ミュージアム あいち山車まつり日本一協議会 愛知県登文会
 稲沢市教育委員会 犬山市教育委員会 一宮市三岸節子記念美術館 一宮市博物館
 一般社団法人日本甲冑武具研究保存会 岩倉市教育委員会 江南歴史民俗資料館
 大宜味村教育委員会 大口町歴史民俗資料館 大府市歴史民俗資料館 春日井市教育委員会
 春日井道風記念館 神奈川大学日本常民文化研究所 蟹江町遺族会
 刈谷市教育委員会 刈谷市郷土資料館 刈谷市歴史博物館 岐阜関ヶ原古戦場記念館
 黒川紀章氏顕彰碑建立委員会 幸田町教育委員会 国立歴史民俗博物館 小牧市教育委員会
 須西小学校 瀬戸市文化振興財団 瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター 全国山・鉾・屋台保存連合会
 総会長浜大会実行委員会事務局 全国料理業生活衛生同業組合連合会 田原市博物館 中京大学文学会 知立市教育部文化課
 東海市教育委員会 土岐市文化振興事業団 豊川市桜ヶ丘ミュージアム 豊川市市民文化振興課
 豊田市博物館 豊田市美術博物館 トヨタ博物館 豊橋市教育委員会 豊橋市教育委員会・美術博物館文化財センター
 名古屋城振興協会 名古屋城調査研究センター 南山大学人類学博物館 西尾市教育委員会 日本河川協会
 半田市立博物館 みよし市教育委員会 四日市シティプロモーション部文化課

個人 15 人

5) 寄付者芳名（五十音順、敬称略）

一般社団法人学びの文庫

6) 寄託者芳名（五十音順、敬称略）

個人 1 人

2 調査・研究事業

調査・研究事業は、展示事業や文化財保護事業と連動し、地域の歴史・民俗・文化財に関する基礎的研究を進めることを目的として実施している。成果は展示や刊行物等を通じて公開し、地域文化の理解促進に資している。

(1) 文化財指定に関わる関連資料の調査・研究

町内に所在する文化財の保存・活用を推進するため、文化財指定に関連する資料の調査・研究を行った。文化財の価値評価に必要な歴史的背景、伝承、構造、技術などの情報収集を進め、文化財保護行政の基礎資料として整理した。

(2) 資料館主体の歴史・民俗・自然に関する調査・研究

地域の歴史・民俗・自然環境に関する調査を実施した。展示に伴う調査では、資料の選定や解説作成に必要な情報を収集し、展示内容の充実を図った。

(3) 国・県・自治体等からの依頼による調査・研究

国・県・他自治体等からの依頼に基づき、文化財や歴史資料に関する調査協力を行った。地域間連携の一環として、資料提供や調査協力を通じ、広域的な文化財保護の推進に寄与した。

(4) 資料館の意義に理解を示す各位による調査・研究

研究者・専門家・地域団体等による調査・研究活動に対し、資料閲覧や情報提供などの協力を行った。当館所蔵資料を活用した研究成果は地域文化の理解促進に資するものであり、今後も継続的な支援を行っていく。

3 情報発信事業

情報発信事業は、町民および利用者に対し、文化財や歴史資料に関する情報を適切に発信し、地域文化への理解促進を図ることを目的として実施している。

(1) 蟹江町歴史民俗資料館年報第45冊

150部を発行し、関係機関・研究者・町内施設等へ配布した。

(2) 「蟹江町文化財ガイドマップ 蟹江の文化財」

1,000部を発行し、学習活動や文化財の紹介に活用した。

(3) 「須成祭の車楽船行事と神葎流し ガイドブック」

100部を発行し、須成祭の概要や行事内容、歴史的背景の紹介に活用した。

(4) 須成祭児童用パンフレット「知ってみよう！須成祭」

1,000部を発行し、小学生向けに須成祭をわかりやすく紹介するために活用した。

IV 文化財保護事業

文化財保護事業は、町内に所在する文化財の保存・活用を推進し、地域文化の継承と理解促進を図ることを目的として実施している。本章では、令和6年度に行った文化財保護等事業費補助事業、文化財公開事業、文化財普及・啓発事業、文化財保存活用地域計画事業の内容を整理する。

1 文化財保護等事業費補助事業

文化財保護等事業費補助事業は、国指定・町指定の無形民俗文化財や郷土芸能の継承団体に対し、活動継続のための補助を行っている。

| 回 | 事業名 | 補助事業者 | 対象文化財・芸能 |
|----|------------------|--------------|----------------|
| 1 | 国指定重要無形民俗文化財伝承事業 | 須成文化財保護委員会 | 須成祭の車楽船行事と神葎流し |
| 2 | 国指定文化財維持管理事業 | 須成文化財保護委員会 | 富吉建速神社・八劔社 |
| 3 | 町指定無形民俗文化財伝承事業 | 蟹江新町日吉神楽保存会 | 蟹江新町日吉神楽 |
| 4 | 郷土芸能伝承事業の振興事業 | 中之町町内会祭囃子保存会 | 蟹江祭祭囃子 |
| 5 | 郷土芸能伝承事業の振興事業 | 西之森神楽太鼓保存会 | 西之森神楽太鼓 |
| 6 | 郷土芸能伝承事業の振興事業 | 蟹江本町北之町祭保存会 | 蟹江祭祭囃子 |
| 7 | 郷土芸能伝承事業の振興事業 | 東大海用神楽保存会 | 東大海用神楽太鼓 |
| 8 | 郷土芸能伝承事業の振興事業 | 本町分神楽保存会 | 本町分神楽太鼓 |
| 9 | 郷土芸能伝承事業の振興事業 | 舟入神楽保存会 | 舟入神楽太鼓 |
| 10 | 郷土芸能伝承事業の振興事業 | 今神楽保存会 | 今神楽太鼓 |
| 11 | 郷土芸能伝承事業の振興事業 | 西大海用神楽太鼓保存会 | 西大海用神楽太鼓 |
| 12 | 郷土芸能伝承事業の振興事業 | 上之町祭保存会 | 蟹江祭祭囃子 |
| 13 | 郷土芸能伝承事業の振興事業 | 蟹江本町新屋敷祭保存会 | 蟹江祭祭囃子 |
| 14 | 郷土芸能伝承事業の振興事業 | 蟹江本町海門祭保存会 | 蟹江祭祭囃子 |
| 15 | 郷土芸能伝承事業の振興事業 | 駅前区祭囃子保存会 | 駅前祭囃子 |
| 16 | 郷土芸能伝承事業の振興事業 | 蟹江本町城之町祭保存会 | 蟹江祭祭囃子 |
| 17 | 郷土芸能伝承事業の振興事業 | 源才神楽保存会 | 源才神楽太鼓 |

2 文化財公開事業

文化財公開事業は、町内に所在する文化財の魅力を広く発信し、地域文化への理解を深めることを目的として実施している。

(1) 文化財資料出展・公開

かにえ町民まつりにおいて、各町内会の協力を得て文化財および郷土芸能の公開を行った。



神楽太鼓の公開

| 回 | 日 | 内 容 | 協力町内会 |
|---|--------------------------|--------------|----------------------------|
| 1 | 10月13日（日） 10:00～11:30 | 神楽屋形・神楽太鼓の公開 | 西大海用、本町分、今、舟入、源才、蟹江新町、東大海用 |

(2) 重要文化財公開

平成17年（2005）の保存活用施設建設を契機として、龍照院の木造十一面観音立像の定例公開を実施している。

公開にあたっては、ガイドボランティアによる解説を行った。

| 回 | 日 程 | 内 容 | 来場者 |
|-----|-----------|-------|------|
| 1 | 4月18日（木） | 定例公開日 | 29人 |
| 2 | 5月18日（土） | 定例公開日 | 59人 |
| 3 | 6月18日（火） | 定例公開日 | 21人 |
| 4 | 7月18日（木） | 定例公開日 | 22人 |
| 5 | 8月18日（日） | 定例公開日 | 31人 |
| 6 | 9月18日（水） | 定例公開日 | 28人 |
| 7 | 10月18日（金） | 定例公開日 | 41人 |
| 8 | 11月18日（月） | 定例公開日 | 30人 |
| 9 | 12月18日（水） | 定例公開日 | 28人 |
| 10 | 3月18日（火） | 定例公開日 | 61人 |
| 合 計 | | | 350人 |

3 文化財普及・啓発事業

文化財普及・啓発事業は、文化財防火デーに合わせた啓発活動や防火訓練等を通じ、文化財の防災意識を高めることを目的として実施している。



1月17日 富吉建速神社・八劔社にて

| 回 | 日程 | 実施内容 | 実施場所 |
|---|----------|---------|--------------------|
| 1 | 1月17日（金） | 消防署立入検査 | 地蔵寺、龍照院、富吉建速神社・八劔社 |
| 2 | 1月19日（日） | 消防訓練 | 富吉建速神社・八劔社 |
| 3 | 1月24日（金） | 避難訓練 | 蟹江町産業文化会館 |

4 文化財保存活用地域計画事業

「蟹江町文化財保存活用地域計画」は、町内の文化財を総合的に保存・活用するための方針を示した計画である。令和2年度から策定に取り組み、令和5年（2023）7月21日に文化庁長官の認定を受けた。

令和6年度に当館が実施した各事業は、本計画の方針に基づいて進めたものである。

(1) 概要

本計画では、「歴史・文化・愛着・誇りを育むまちづくり」を将来像として掲げ、町民とともに文化財の保存・活用を進めることを目的としている。

指定文化財だけでなく未指定文化財も広く対象とし、町全体の文化財を総合的に捉えた保存・活用の方針を示している。また、関連文化財群や保存活用区域の設定など、100項目に及ぶ措置を整理している。



蟹江町文化財保存活用地域計画 [トップページ]

<https://www.town.kanie.aichi.jp/soshiki/18/bunkazaihozonnkatuyouchiikikeikaku.html>



蟹江町文化財保存活用地域計画 本文 [PDF ファイル/13.93MB]

<https://www.town.kanie.aichi.jp/uploaded/attachment/16982.pdf>



蟹江町文化財保存活用地域計画 資料編 [PDF ファイル/1.72MB]

<https://www.town.kanie.aichi.jp/uploaded/attachment/16690.pdf>



蟹江町文化財保存活用地域計画 概要版 [PDF ファイル/4.49MB]

<https://www.town.kanie.aichi.jp/uploaded/attachment/16983.pdf>

(2) 蟹江町文化財資料データベース

令和6年度は、文化財保存活用地域計画に基づき、町内に所在する文化財および当館所蔵資料のデジタルデータベース化に取り組んだ。

その成果として、指定文化財、未指定文化財、当館所蔵資料の一部を公開した。



蟹江町文化財資料データベースについて [トップページ]

<https://www.town.kanie.aichi.jp/soshiki/18/bunkazai-database.html>

V 資料編

資料編は、令和6年度に当館が実施した展示事業、教育普及事業、調査・研究等に関連する資料を収録したものであり、事業成果を補完し、研究・学習に資することを目的としている。

展示解説は、同年度の展示内容を補足し、展示資料の背景や調査成果を理解しやすくまとめたものである。

活動報告は、当館が実施した教育普及事業や体験活動の成果を記録し、地域学習の実践例として紹介したものである。

調査研究は、当館所蔵資料や町内の歴史・民俗資料を対象とした研究成果をまとめたものである。

1 展示解説

蟹江町歴史民俗資料館企画展

小酒井不木の書跡と蔵書



奥および手前:「小酒井不木文庫」より
中央:小酒井不木草稿「タナトプシス」

いずれも当館蔵

令和7年3月29日(土) ~ 5月11日(日)

午前9時~午後5時(月曜日休館) 入館無料

場所 蟹江町歴史民俗資料館

蟹江町城一丁目214番地 蟹江町産業文化会館内

TEL/FAX 0567-95-3812

主催 蟹江町教育委員会

小酒井不木草稿『タナトプシス』(第42、51、59回の3回分)

「タナトプシス」は、大正末から昭和はじめにかけて雑誌『内観』において連載され、昭和3年(1928)に単行本としてまとめられた医学的随筆集である。当初は「読書余談」というタイトルで連載していたものを途中で改題した経緯があり、不木の死生観をテーマとした内容が記されている。タナトプシスとは死の考察という意味であり、ギリシャ語で「死」を意味する「タナトス」と「見ること」を意味する「オブシス」から派生した言葉である。

不木が「タナトプシス」を連載した背景には、大病を患い満足に生活ができない焦燥や医学者としての道を断たれたことによる諦念があったほか、少しでも自分の思いを言葉に残したいと考えて、当時の不木にとって身近なテーマであった「死」を題材にしたと推察される。

また「タナトプシス」の冒頭では、原敬首相暗殺を取り上げていることから、当時の時代背景が不木の死生観に影響を与えた可能性も考えられよう。

なお『内観』にて連載するにあたり、不木は原稿料を一切受け取らなかったという。これは主筆である茅原華山と古い付き合い(華山は不木がまだ医学生であった20歳の頃から目をかけてきた)であったほか、あまり潤沢でない資金で運営している『内観』の家庭事情を推し量ってのことのようである。このことから、不木の人となりを窺い知ることができよう。

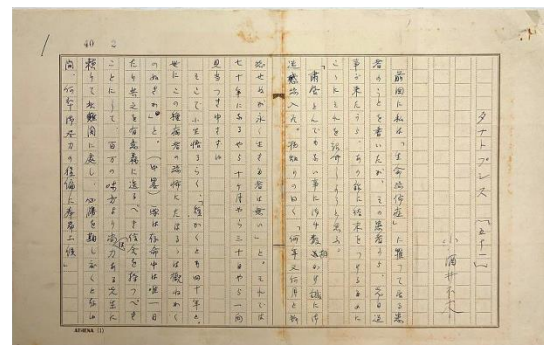
第42回「スタイナーの若返り法」(『小酒井不木全集』11(改造社、昭和5年(1930))、366~370頁)

オーストリアの生理学者オイゲン・シュタイナッハ(Eugen Steinach, 1861-1944)の提唱した「若返り法」を取り上げている。不木の見識のほか、当時の世間における反応が記されていることも興味深い。



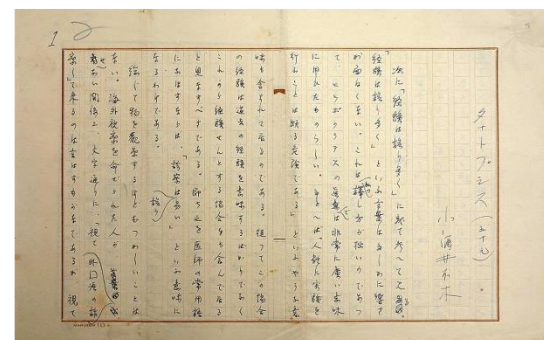
第51回「不老長寿法は人間の空望」(『小酒井不木全集』11(改造社、昭和5年(1930))、406~410頁)

江戸時代の蘭学者であり、発明家としても著名である平賀源内(享保13年(1728)-安永8年(1780))が著した『そしり草』を引用しつつ、不木の死生観について述べられている。



第59回「ピポクラテスの疾病観 四」(『小酒井不木全集』11(改造社、昭和5年(1930))、437~441頁)

医師としての診察の難しさについて、古代ギリシャの医者ヒポクラテス(Hippocrates, 紀元前460年頃-紀元前370年頃)の言葉のほか、不木の学生時代の体験談も踏まえながらユーモラスに記している。



『小酒井不木ミステリー短編』シリーズ

不木は、日本の探偵小説黎明期に活躍した、まさに探偵小説家の草分け的人物であり、38歳で夭折するまでのわずか5年あまりの間(大正13年(1924)から昭和4年(1929)まで)に140以上の作品を執筆した。日本発のSF小説と言われる「人工心臓」や「恋愛曲線」など、当時としては革新的な小説作品を多数世に送り出し、高い評価を得ているほか、親交が深かった江戸川乱歩や「金田一耕助」シリーズを生んだ横溝正史に対し、ミステリー作家としての道を示した人物でもある。

不木が残した名作の数々は、およそ100年という長い年月を経た現代においても色褪せることはないが、彼の名を耳にすることは少なくなっている。また多くの作品が絶版・パブリックドメインとなり、一部がインターネット上で読めるだけという状況になってしまっている。

そこで、蟹江町では時代の波に埋もれつつある不木の作品群にスポットを当てるべく、「20世紀少年」、「TRICK」、「SPEC」などで有名な映画監督・堤幸彦氏の協力を得て、ショートムービーとして蘇らせる不木作品の映像化に取り組んでいる。「不木」という名前の由来となった「初めは頭角を現さず、後から頭角を現すのが本当の人間だ」という漢文の言葉のように、今こそ彼の作品を映像というかたちで現代に蘇らせ、その魅力を世間にPRしていこうという取組であり、これまでに5つの作品が蟹江町内にて撮影・制作されている。

ショートムービー
はこちらから



小酒井不木文庫

不木の遺品のなかには蔵書が約三千冊あったという。自宅の土蔵に納められていた蔵書は太平洋戦争の名古屋大空襲の戦火から奇跡的に免れて残り、昭和50年(1975)に妻・久枝から名古屋市へと寄贈された。寄贈された蔵書のうち、江戸時代の和本等は名古屋市蓬左文庫に収められ、医学書や英文学作品などの洋書は、当時の名古屋市教育委員の一人が愛知医科大学教授だった縁で、愛知医科大学へと寄贈され、ともに「小酒井不木文庫」と名付けられることとなった。小酒井不木文庫のうち、愛知医科大学に収められた洋書については長年同大学図書館にて保管されてきたが、小酒井不木資料を収集している当館へ寄贈いただくこととなり、令和4年(2022)3月11日、愛知医科大学総合学術情報センターより寄付採納が行われた。

愛知医科大学総合学術情報センターより寄贈された小酒井不木文庫は全て英語・ドイツ語・フランス語等で記された原書で、513冊あり、「小説・歴史・詩・その他」「医学史および自然科学」「犯罪学および関連領域」「心理学および性科学」「事典類」「雑誌」に分類されている。年代は、1910年代から20年代の、不木が留学してから亡くなるまでに出版されたものがほとんどであるが、古本屋で買い求めたと思われる1800年代出版の書籍も含まれている。そのため、劣化の激しいものも多数あり、読み物としては不向きであるが、不木が療養生活中に読みふけたであろうコナン・ドイルの「シャーロック・ホームズ」シリーズや、ハーヴェイの『血液循環の法則』ダーウィンの『進化論』なども確認でき、不木の文学的視点や・医学研究の方向性を知りうるだけでなく、文学史・医学史・自然科学史等を見るうえでも貴重な資料である。また、不木による書き込みや、寄贈者からのメッセージが書き込まれたものもあり、不木の人物像や交友歴を知るうえでも重要な資料となっている。

展示資料リスト

| 資料名 | 点数 | 年代 | 所蔵 |
|---|----|-----------------|-----|
| 小酒井不木草稿『タナトプシス』(第42回「スタイナッハの若返り法」) | 1 | 大正時代末期 ～昭和初期 | 当館蔵 |
| 小酒井不木草稿『タナトプシス』(第51回「不老長寿法は人間の空望」) | 1 | 大正時代末期 ～昭和初期 | 当館蔵 |
| 小酒井不木草稿『タナトプシス』(第59回「ヒツポクラテスの疾病観 四」) | 1 | 大正時代末期 ～昭和初期 | 当館蔵 |
| Arthur Conan Doyle, The adventures of Sherlock Holmes., Murray 翻訳:アーサー・コナン・ドイル『シャーロック・ホームズの冒険』(マレー) | 1 | 1922 | 当館蔵 |
| Arthur Conan Doyle, The hound of the baskervilles: another adventure of Sherlock Holmes., Murray 翻訳:アーサー・コナン・ドイル『バスカヴィル家の犬:シャーロック・ホームズのもう一つの冒険』(マレー) | 1 | — | 当館蔵 |
| Arthur Conan Doyle, The return of Sherlock Holmes., Murray 翻訳:アーサー・コナン・ドイル『シャーロック・ホームズの帰還』(マレー) | 1 | 1905 | 当館蔵 |
| Arthur Conan Doyle, Sir Nigel., Hutchinson 翻訳:アーサー・コナン・ドイル『ナイジェル卿』(ハッチンソン) | 1 | 1906 | 当館蔵 |
| Arthur Conan Doyle, The valley of fear., Newnes 翻訳:アーサー・コナン・ドイル『恐怖の谷』(ニューズ) | 1 | — | 当館蔵 |
| Yutaka Hibino, Nippon shindo ron, or: The national ideals of the Japanese people., Cambridge Univ 翻訳:日比野寛『日本臣道論:日本人の国家理想』(ケンブリッジ大学) | 1 | 1928 | 当館蔵 |
| John Milton, The complete poetical works of John Milton., Milford 翻訳:ジョン・ミルトン『ジョン・ミルトン全詩集』(ミルフオード) | 1 | 1913 | 当館蔵 |
| Havelock Ellis, The criminal., Scott 翻訳:ハヴロック・エリス『犯罪者』(スコット) | 1 | 1914 | 当館蔵 |
| Havelock Ellis, Studies in the psychology of sex. Vol. 1., Davis 翻訳:ハヴロック・エリス『性の心理 1~7』(デイヴィス) | 7 | 1925 | 当館蔵 |
| William Harvey, An anatomical dissertation upon the movement of the heart and blood in animals., Moreton 翻訳:ウィリアム・ハーヴェイ『動物における心臓と血液の運動について』(モレトン) | 1 | 1894 | 当館蔵 |
| Richard von Krafft-Ebing, Psychopathia sexualis, with especial reference to contrary sexual instinct: a medico-legal study., Davis 翻訳:リヒャルト・フォン・クラフト＝エビング『性の精神病理 特に相反する性的本能への言及:医療法的研究』(デイヴィス) | 1 | 1901 | 当館蔵 |
| René Laennec, A treatise on the diseases of the chest, and on mediate auscultation., Samuel 翻訳:ルネ・ラエンネック『胸部の病気と間接聴診法に関する論文』(サミュエル) | 1 | 1838 | 当館蔵 |
| Charles Darwin, The different forms of flowers on plants of the same species., Murray 翻訳:チャールズ・ダーウィン『花のかたち』(マレー) | 1 | 1884 | 当館蔵 |
| Charles Darwin, The effects of cross and self fertilisation in the vegetable kingdom, Murray 翻訳:チャールズ・ダーウィン『植物の受精』(マレー) | 1 | 1878 | 当館蔵 |
| Charles Darwin, The expression of the emotions in man and animals., Murray 翻訳:チャールズ・ダーウィン『人間と動物の表情』(マレー) | 1 | 1878 | 当館蔵 |

| 資料名 | 点数 | 年代 | 所蔵 |
|--|----|-------------|-----|
| Charles Darwin, The formation of vegetable mould, through the action of worms, with observations on their habits., Murray 翻訳: チャールズ・ダーウィン『ミミズと土』(マレー) | 1 | 1883 | 当館蔵 |
| Charles Darwin, Insectivorous plants., Murray 翻訳: チャールズ・ダーウィン『食虫性植物』(マレー) | 1 | 1875 | 当館蔵 |
| Charles Darwin, The movements and habits of climbing plants., Murray 翻訳: チャールズ・ダーウィン『クライミング植物の動きと習慣』(マレー) | 1 | 1885 | 当館蔵 |
| Charles Darwin, On the origin of species: by means of natural selection, or: The preservation of favoured races in the struggle for life., Murray 翻訳: チャールズ・ダーウィン『種の起源: 自然選択または生存競争における好ましい種の保存』(マレー) | 1 | 1907 | 当館蔵 |
| Charles Darwin, The power of movement in plants., Murray 翻訳: チャールズ・ダーウィン『植物の運動力』(マレー) | 1 | 1882 | 当館蔵 |
| Charles Darwin, The variation of animals and plants under domestication. Vol. 1., Murray 翻訳: チャールズ・ダーウィン『家畜・栽培植物の変異 1』(マレー) | 1 | 1885 | 当館蔵 |
| Charles Darwin, The variation of animals and plants under domestication. Vol. 2., Murray 翻訳: チャールズ・ダーウィン『家畜・栽培植物の変異 2』(マレー) | 1 | 1885 | 当館蔵 |
| Charles Darwin, The various contrivances by which orchids are fertilised by insects., Murray 翻訳: チャールズ・ダーウィン『蘭が昆虫によって受精される様々な工夫』(マレー) | 1 | 1885 | 当館蔵 |
| 「小酒井文庫」看板 | 1 | 昭和時代 | 当館蔵 |
| 小酒井不木関連グッズ | 11 | 令和時代 | 当館蔵 |
| ショートムービー第2弾「安死術」の撮影に使用された自転車 | 1 | 昭和時代 | 当館蔵 |
| 広報かにえ No.583 (令和2 (2020) 年3月号) | 1 | 令和2年 (2020) | 当館蔵 |
| 広報かにえ No.594 (令和3年 (2021) 2月号) | 1 | 令和3年 (2021) | 当館蔵 |
| 広報かにえ No.609 (令和4年 (2022) 5月号) | 1 | 令和4年 (2022) | 当館蔵 |
| 広報かにえ No.620 (令和5年 (2023) 4月号) | 1 | 令和5年 (2023) | 当館蔵 |
| かにえフィルムコミッション「死体蠟燭・安死術ロケ地マップ」 | 1 | 令和5年 (2023) | 当館蔵 |
| かにえフィルムコミッション「網膜現像ロケ地マップ」 | 1 | 令和5年 (2023) | 当館蔵 |

参考文献

蟹江町歴史民俗資料館『蟹江町歴史民俗資料館年報』43 (蟹江町歴史民俗資料館、2022年)
蟹江町歴史民俗資料館『蟹江町歴史民俗資料館年報』45 (蟹江町歴史民俗資料館、2025年)
相賀徹夫『万有百科大事典』(小学館、1976)

この企画展は

令和5年に文化庁より認定を受けた

「蟹江町文化財保存活用地域計画」の水郷にまつわる歴史文化
歴史文化の特徴を踏まえた関連文化財群に関する措置

「水の豊かな土地が育んだ土地ゆかりの著名人」
⑤「文学のさと蟹江」
措置 66 蟹江町ゆかりの文学者に関する調査研究
措置 68 作品に触れる機会の創出

の趣旨に基づき企画されました。



蟹江町文化財保存活用地域計画 [トップページ]



2 活動報告

かにえキッズ調査隊活動報告

第1回（令和6年7月6日） 蟹江町の一番古い場所に行ってみよう！

富吉建速神社・八劔社を見学し、須成祭ミュージアム「祭人」では祭りの疑似体験を楽しんだ。産業文化会館に戻ってからは、「宇宙人に須成地区の文化財を説明するなら？」というテーマでポスターづくりと発表に取り組んだ。

子どもたちは、神社の屋根がひのきの皮で葺かれていることや、大イチョウが豊臣秀吉によって植えられたと伝わることなど、町の歴史に触れながら多くの学びを得た。普段は立ち入ることのできない神域に入る際には「清めの塩」を体にふりかける作法も体験し、厳かな雰囲気の中で歴史を実感する時間となった。

また、祭船や巴御前の物語にも触れ、「もっと蟹江の歴史を知りたい」という声も聞かれた。一方で、アイスの「くずバー」を味わったり、クイズや付箋を使った話し合いを楽しんだり、学びと遊びが融合した一日となった。参加者からは「帰るのがさみしい」という声もあり、地域の文化に親しむ温かな時間となった。



富吉建速神社・八劔社の見学

第2回（令和6年7月13日） えっ！京都からあの人が蟹江町に来たの！？

平治の乱で敗れた源義朝が蟹江まで落ちのびてきた道筋を、バスで巡りながら学んだ。

産業文化会館では、「源義朝について」「愛西・弥富の源義朝伝承地について」「蟹江町の源氏島について」の三つのテーマでグループワークを実施した。さらに「撤退大作戦！」と題し、日本地図の白地図を貼った模造紙に義朝を逃がす経路を考える活動にも取り組み、楽しみながら歴史理解を深めた。

歴史の厳しさに触れ、「義朝が結局殺されてしまったのは悲しい」と感じる子もいれば、「これからは義朝だけでなく、子の頼朝についても知りたい」と学びを広げる声も聞かれた。



源氏塚公園での解説

子どもたちが源義朝と地域の歴史を楽しく学び、仲間との交流を深める成果が見られた一日であった。まさに「蟹江に義朝あり！」を実感する活動となった。

第3回（令和6年7月27日） 須成祭の“ちまき作り”体験をしてみよう！

須成公民館で須成祭の歴史や由来についてのミニレクチャーを受講した。「100日も準備にかかる」とは知らなかった」「50人も船に乗れることに驚いた」など、祭りの奥深さに触れる声が多く聞かれた。



須成公民館での“ちまき作り”体験

続いて、祭りの縁起物として配られるちまき作りに挑戦した。初めての子どもが多く、「マコモをなうのがむずかしい」「ねじるのが大変」と苦戦しながらも、完成した瞬間には笑顔が広がった。「初めて作って楽しかった」「調子にのってたくさん作ってしまった」といった感想も寄せられた。

その後、産業文化会館に移動し、「蘇民将来のイメージ図を描こう！」という創作ミッションに取り組んだ。また、「須成祭をもっと盛り上げるには？」をテーマにしたワークショップでは、グループで意見を出し合い、活発な議論が行われた。

参加者からは「須成祭は良い祭りだと思った」「これから何度か見に行きたい」「もっと楽しい祭りにしたい」といった声が多く、地域の伝統文化への関心が高まった様子が見えられた。今回の体験を通して、子どもたちは須成祭の歴史や魅力を学び、実際に手を動かすことで伝統を支える人々の思いにも触れた。未来の“祭りの担い手”たちのまなざしは、ひととき輝いていた。

第4回（令和6年8月9日） むかしむかし、蟹江にお城がありました！

蟹江城と蟹江合戦の歴史を学んだ。参加者は三つのグループに分かれ、蟹江城址公園と産業文化会館をローテーションしながら多彩な体験に挑戦した。



蟹江城についてのグループワーク

蟹江城址公園では、戦国時代に起きた「蟹江合戦」について説明を受け、当時の戦いの様子や城の姿を思い浮かべた。産業文化会館では、古地図と現代地図をパソコンで比較し、川や田んぼの位置、土地の

高低差など、地形の変化を読み解いた。また、ガイドボランティアの協力により、レプリカの鎧を身につけた子どもたちは「重い」「暑い」「思ったより大変」と武将の苦労を実感した。刀や鉄砲の模型に触れる体験のほか、段ボールを使った鎧づくりにも挑戦し、

歴史を体で学ぶ機会となった。

さらに、学んだことをもとに各グループが蟹江合戦のイメージ図を制作した。「風雲蟹江合戦コンペ！」と題した発表会では、互いの作品を見合いながら評価し合い、会場は大いに盛り上がった。

参加者の振り返りには、「蟹江城が600年前につくられたことに驚いた」「家康や秀吉が蟹江に来たのがすごい」「昔の地図と今の地図とを比べて土地の特徴がよく分かった」などの声が寄せられ、歴史への興味が深まった様子がうかがえた。今回の活動を通して、子どもたちは地域の歴史を知り、作り、歩き、感じる多面的な学びを体験した。蟹江町の歴史を未来へつなぐ、夏の日となった。

第5回（令和6年8月23日） 海から田んぼへ！？ 江戸時代の新田開発

子どもたちは、江戸時代に干拓によって生まれた鍋蓋新田を訪れ、堤防に囲まれた独特の地形を観察した。当時の人々が海を陸地へと変えていった営みに思いを馳せ、「昔はショベルカーがなかったのですごい」「堤防は町を支える大切なものだと思った」と驚きの声が上がった。



椅子を用いた堤防作りゲーム

続いて産業文化会館では、「目指せ！新田開発のプロ」と題した体験学習を実施した。椅子を堤防に見立て、グループごとに新田開発の仕組みを再現するワークに挑戦し、「椅子で堤防を作る堤防ゲームはむずかしかったけれど楽しかった」と笑顔が広がった。

最後に、地図や写真をもとに学んだ内容をワークブックにまとめ、干拓の方法や新田開発者である鈴木四郎左衛門家の役割など、地域の歴史への理解を深めた。「新田とは何かがよく分かった」「昔の人はすべて人力で工事していてすごい」といった感想も寄せられ、学びの手応えが感じられた。

最後に、地図や写真をもとに学んだ内容をワークブックにまとめ、干拓の方法や新田開発者である鈴木四郎左衛門家の役割など、地域の歴史への理解を深めた。「新田とは何かがよく分かった」「昔の人はすべて人力で工事していてすごい」といった感想も寄せられ、学びの手応えが感じられた。

海を陸に変え、暮らしを切り開いてきた先人たちの努力を、現地を歩き、体験しながら学んだ今回の活動は、子どもたちにとって地域の歴史を身近に感じる一日となった。

3 調査研究

昭和40年代の蟹江町全域のデジタル復元図とその分析について～ 生活の基盤と嗜好がクロスする時代を読み込む～

佐藤 章

1 はじめに

昭和42年(1967)発行の住宅地図を参考に町民からの情報を加味しながら作成していた蟹江町全体のデジタル復元地図が完成した。昨年度中に本町地区、須成地区、舟入地区は完成していたが、富吉地区などを新たに付け加えることにより、全体地図が完成した。Excel データで作成しているため、自営業については、屋号と職種を表記し、セルのコメント欄には代表者の氏名や創業、廃業年度などを入力している。企画展などでは、個人情報保護の観点から、屋号・職種のみを大地図を展示している。

今回は復元地図と当時の写真を展示するだけでなく、地図から一つ一つ丹念に読み込んだ自営業者数を衣食住それぞれに分類し、それぞれを物販とサービスに分けた。それを本町地区(さらに四地区に細分)、須成・藤丸地区、舟入地区、西之森～蟹江新田地区、富吉～大海用地区に分けて分析した。

2 企画展示

完成した復元地図と分析結果については、本年度、3回の企画展示会を実施、図書館での展示は、中日新聞(尾張版)とWeb版に掲載された。

(1) 出張! ちょこっと思い出して昔の蟹江～昭和40年代の前半の町並み～

期間 令和6年(2024)4月27日(土)～6月2日(日)

場所 蟹江町多世代交流施設「泉人」

(2) 出張第2弾! ちょこっと思い出して昔の蟹江～昭和40年代の前半の町並み～

期間 令和6年(2024)12月14日(土)～令和7年1月29日(水)

令和6年12月25日(土)14:00～15:00 ギャラリートークを実施

場所 蟹江町図書館2階ギャラリー

(3) ちょこっと思い出して昔の蟹江～昭和40年代の前半の町並み～

期間 令和7年(2025)2月4日(火)～3月16日(日)

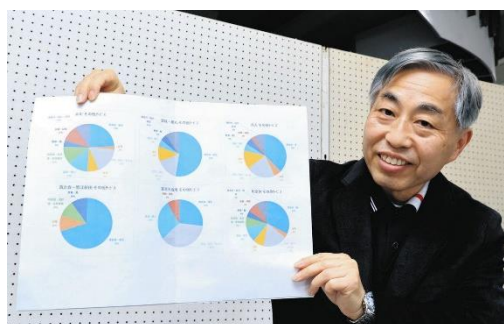
令和7年3月8日(土) 14:00～15:00 ギャラリートークを実施

場所 蟹江町産業文化会館 1階ロビー

(4) 中日新聞(尾張版)とWEB版 2024年12月21日 05時05分 (12月21日 11時35分更新)

昭和の蟹江を振り返る展示 図書館で資料館職員が写真や職業分布紹介

1970年ごろの蟹江町の産業や街並みを知ってもらおうと、町歴史民俗資料館の佐藤章さん(62)が、写真や昔の人たちの大まかな職業分布をまとめた資料を作った。1年



独自にまとめた職業分布を記した資料を手に持つ佐藤さん=蟹江町内で

以上かけた労作で、来年1月29日まで昔の様子を写した写真とともに町図書館2階で展示している。佐藤さんは「若い人に見てもらい、地元へ愛着がわく企画になればいい」と話す。(森雅貴)

同町蟹江本町出身の佐藤さん。「資料を読み解くのが好きだった」と、高校で日本史を教えてきた。定年後は資料館で働いているが、「(蟹江城を巡って家康と秀吉が戦った)蟹江合戦の資料はたくさんあるが、昭和の蟹江についての文献は乏しい」と実感した。

そこで、町民に向けて70年ごろの写真を募集。町商工会が発行した67年当時の企業の概要を記した資料と照らし合わせながら、町の特徴を地道に調べていった。また、住宅地図を表計算ソフトに落とし込む作業にも取り組んだ。

本町や舟入、須成では生活必需品がそろそろ小売店や飲食店が密集していたことを発見した。また、物資を河川で輸送していた名残で、蟹江川沿いには米や清酒、しょうゆなどを扱う問屋が目立ったこと、佐屋川がボラ釣りの一大スポットとして全国から釣り客が訪れたことなどを紹介。地区ごとに多かった職業を独自に分析し、円グラフで示した。

町図書館の会場では、調べ尽くした昔の蟹江のデータを約40枚の写真とともに紹介している。25日午後2～3時には図書館で、調査の結果や苦労したことなどを説明するギャラリートークを開く。佐藤さんは「にぎやかな蟹江の時代に思いを巡らせてもらえたら」と来場を呼びかける。入場無料。予約不要。

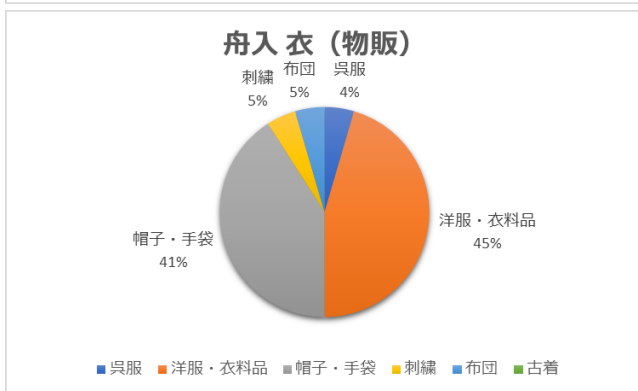
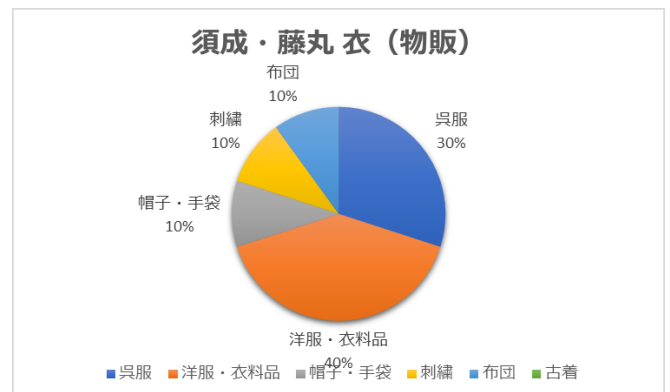
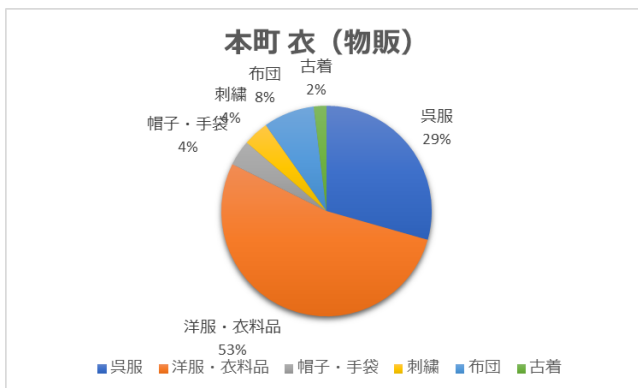
町図書館は月曜や年末年始、祝日の翌日は休館日。



会場に並ぶ昭和の蟹江を写した写真=蟹江町図書館で

3 自営業者の職業別地区別分析結果

(1) 衣（物販）



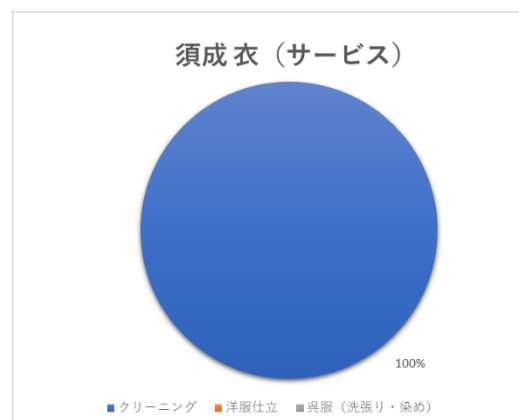
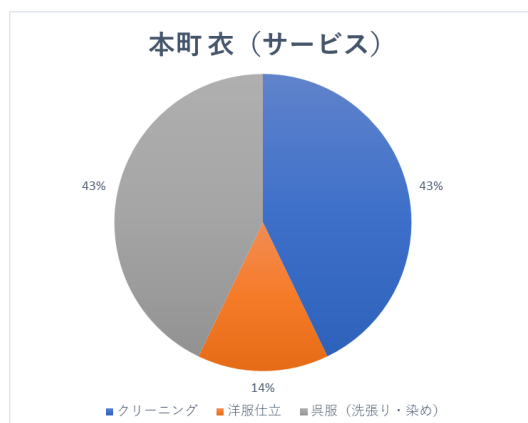
生活の洋装化が進み、洋服・衣料品の店が主流を占めているものの、本町・須成地区には呉服屋の割合が高い。また、布団屋も各地区にあり、寝具を地元商店街でしつらえる人は多かった。刺繍店もあり、細々と伝統を引き継いでいたことがわかる。舟入では、帽子・手袋を縫製・

販売する店の割合が高かった。本町地区には古着を扱う店もあった。

戦後の高度経済成長期で洋服需要が増え、呉服から洋服への移行期を反映している。

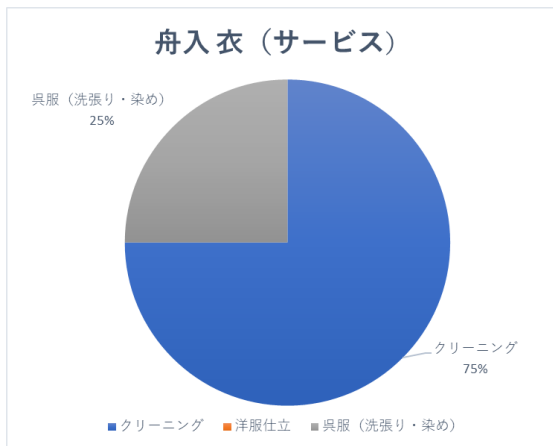
(2) 衣（サービス）

7点

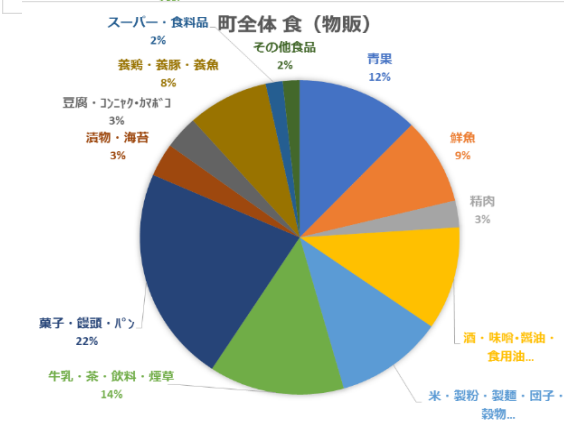
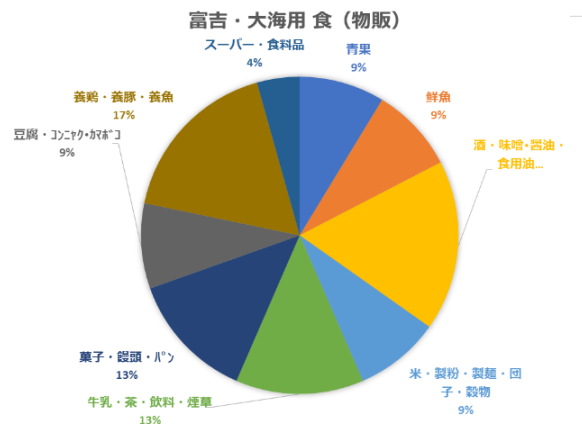
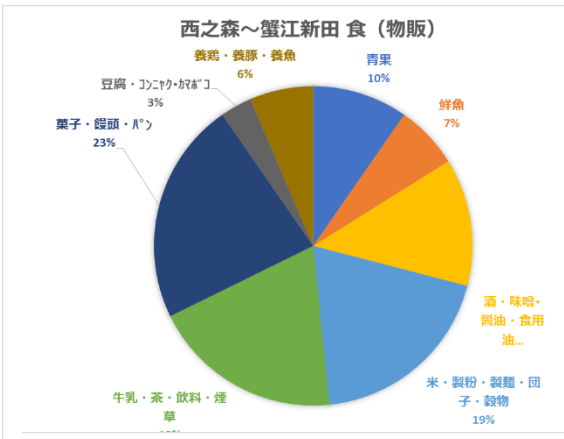
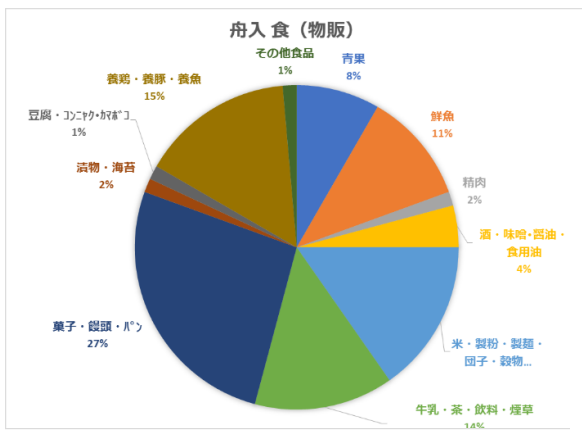
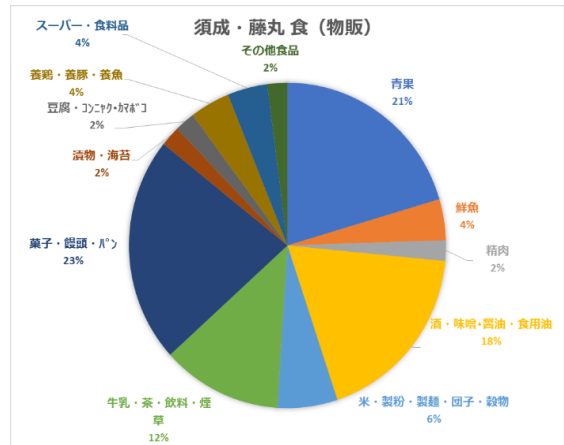
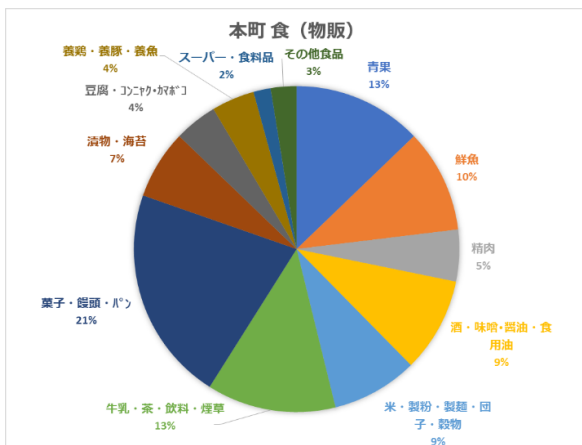


戦後の衣生活の変化を反映してクリーニング店が主流を占めているが、本町・舟入地区では、呉服の需要に伴い、洗い張りや染めの店があった。本町地区には洋服仕立ての店もあった。

他地区には、衣に関する自営業者が存在せず、グラフ作成からは外した。



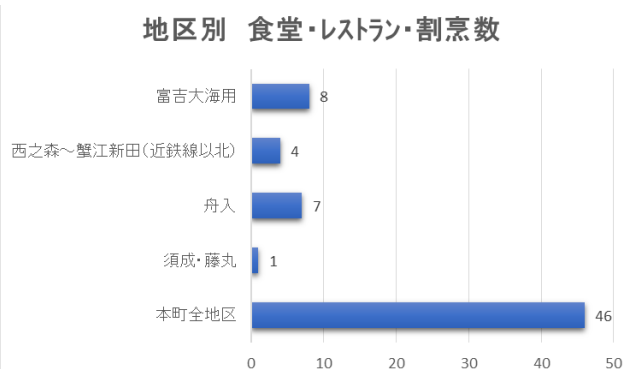
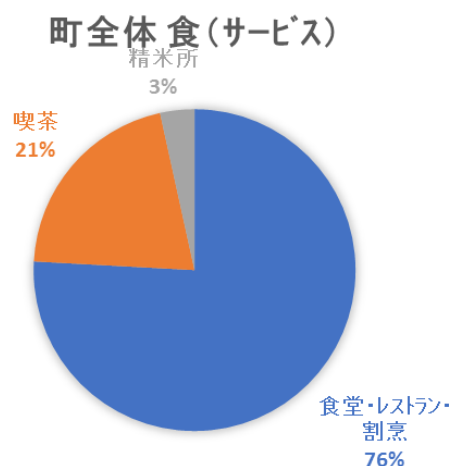
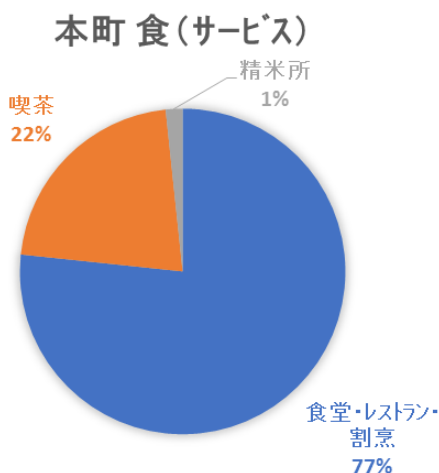
(3) 食 (物販)



どの地区も菓子・饅頭・パン・飲料・煙草など嗜好品を扱う店舗が突出して多い。特に菓子・饅頭・パンは65軒（食物販の約22%）と食関連の中で最も多い。町の人々の嗜好品・日常食として菓子やパンが広く普及していたことを示している。高度経済成長期にパン食が急速に浸透した時代背景とも一致。牛乳・茶・飲料・煙草は40軒（約14%）、飲料や嗜好品の需要が大きく、生活習慣の変化を反映している。特に牛乳は学校給食制度の普及と関連があると考えられる。青果が36軒、鮮魚が26軒、精肉が8軒で、生鮮食品も多いが、菓子・パンや嗜好品に比べるとやや少ない。町の規模からすると、家庭での自給や近隣都市からの供給もあった可能性もある。養鶏・養豚・養魚は24軒で、生産と販売が近接していたことを示し、農村的要素がまだ強く残っていた。

地区別では、本町地区は店舗数が多く、取り扱う商品も多種に渡り、店舗種類も多い。須成・藤丸地区は、酒・味噌・醤油の醸造元及び、取り扱う店の割合が多い。市場はその他に分類した。舟入地区は鮮魚を扱う店、関係者が多く、鶏卵、鶏肉、養魚、養豚の割合も多い。スーパーマーケットはない。西之森～蟹江新田地区は、八百屋、魚屋の割合が少なく、穀物、飲料関係の割合が多い。

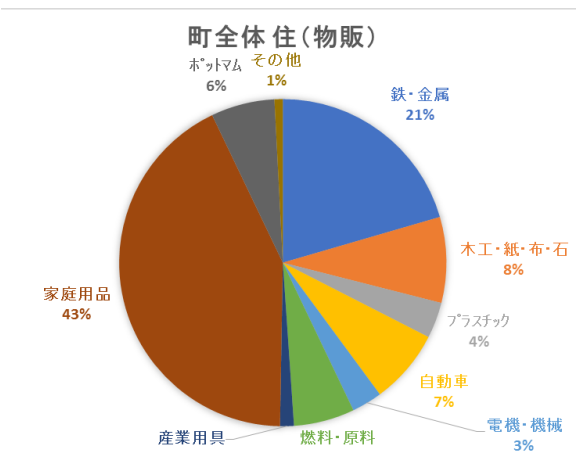
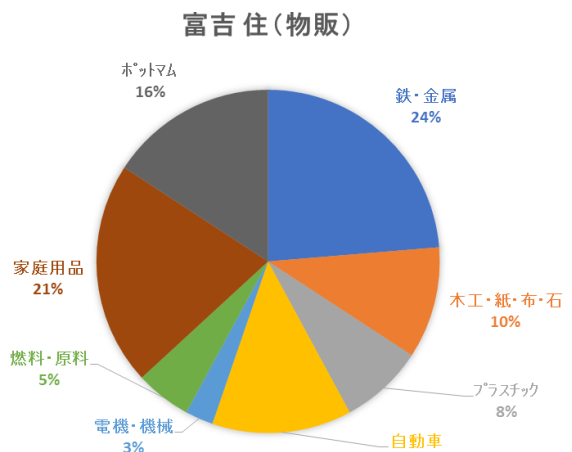
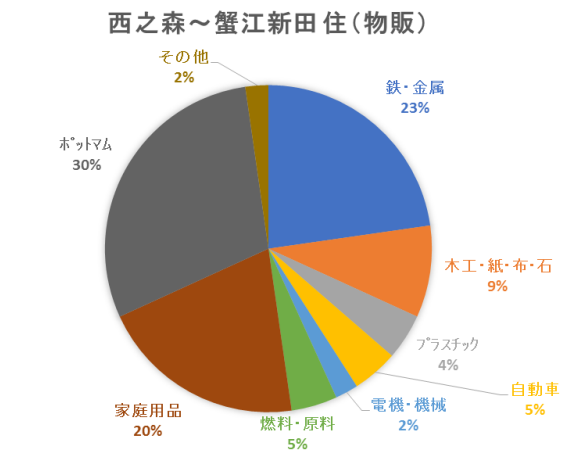
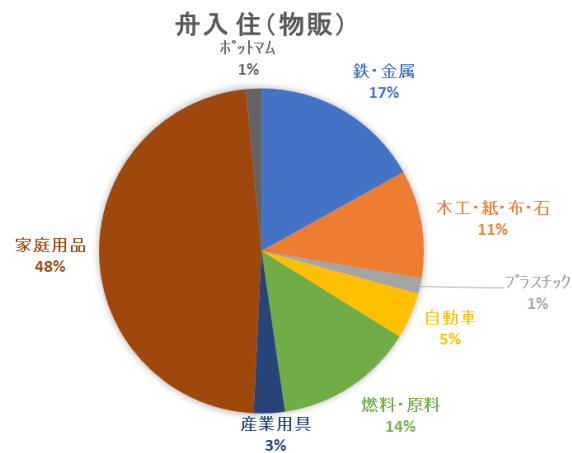
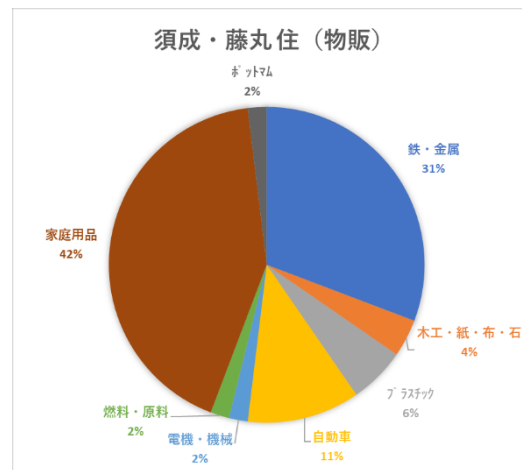
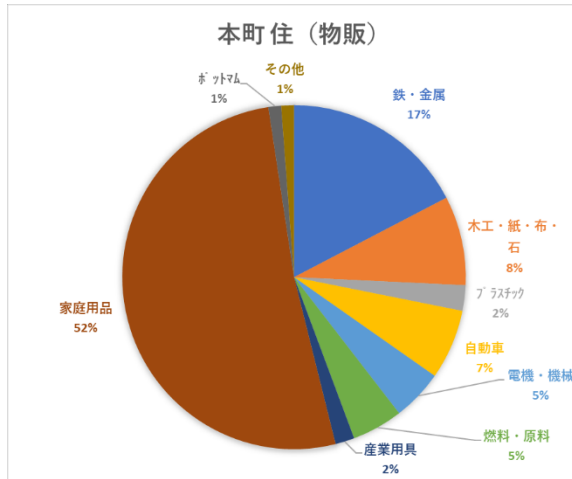
(4) 食（サービス）



本町地区に大部分が集中している。駅前、工場周辺、商店街の中心、役場周辺は特に多い。その内訳をみると、食堂・レストラン・割烹が全体の4分の3を占めている。これは、大工場など蟹江で勤務している若者が利用したと考えられる。4分の1は喫茶店だが、野良茶文化を反映して住民が利用したり、ビジネスマンが商談等で普段に利用したりしたと

考えられる。

(5) 住（物販）

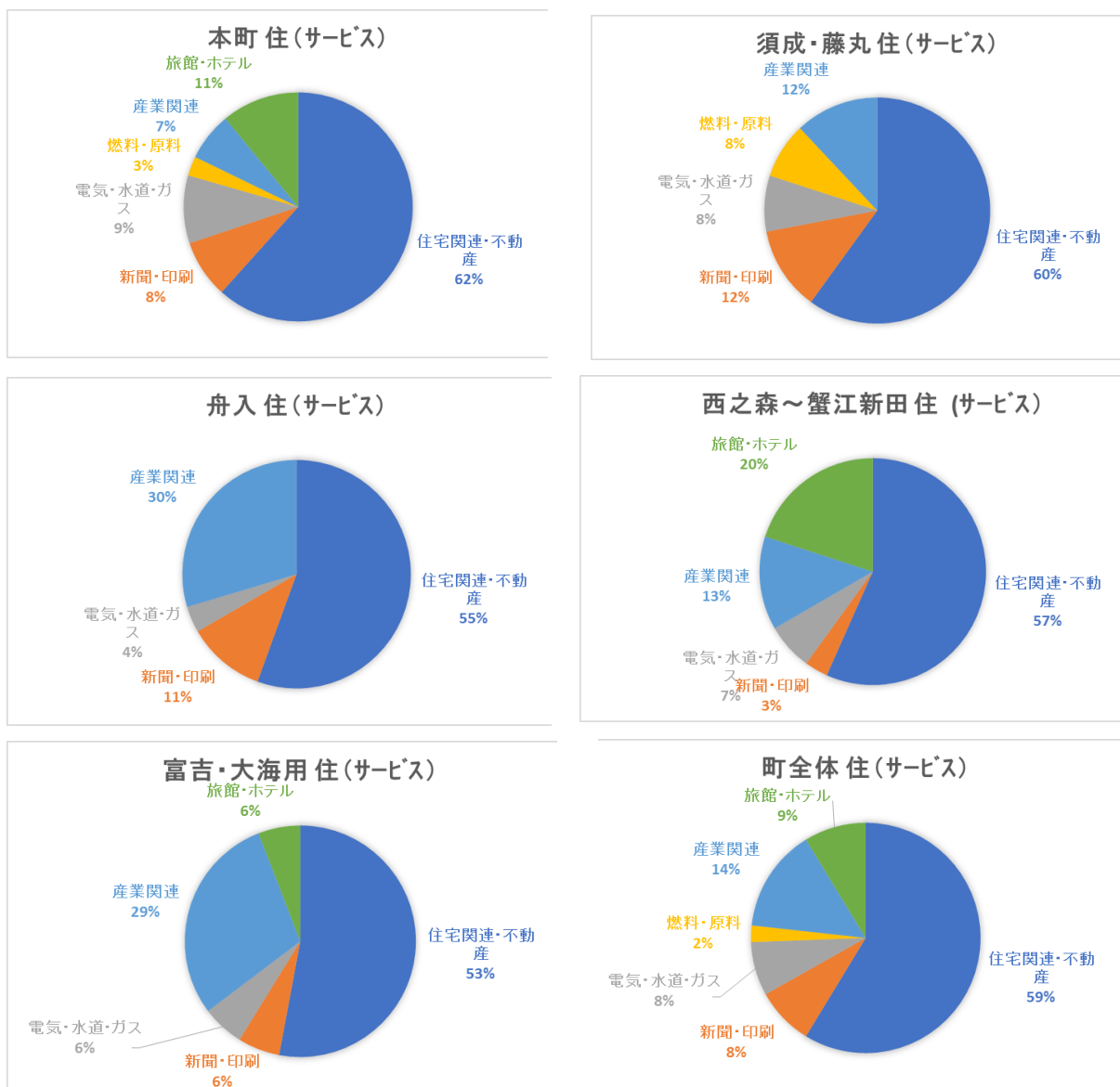


家庭用品が 156 軒（住物販の約 43%）で圧倒的に多い。日用品・雑貨・生活必需品の販売が町の商業の中心。高度経済成長期の「大量消費社会」の到来を反映している。鉄・金属が 75 軒（約 20%）で、工業資材や建築関連需要が大きい。工業化された産業の一部を担っていた町工場が点在しており、町の産業基盤を支える役割があった。自動車が 27 軒、燃料・原料は 22 軒、薪炭を扱う店からガソリンスタンドまで多岐にわたるが、モータリゼーションの進展を裏付けている。プラスチック、自動車を扱う店も増えつつあり、統計に如実に反映されている。車社会への移行期に対応した商売が

増加した。

本町地区、須成・藤丸地区、舟入地区は、家庭用品を扱う店が半分を占めているが、西之森～蟹江新田地区、富吉・大海用地区は、家庭用品の割合が半分になり、伊勢湾台風以前にトマト栽培していたビニールハウスを転用してポットマムを栽培するところが多かった。

(6) 住（サービス）

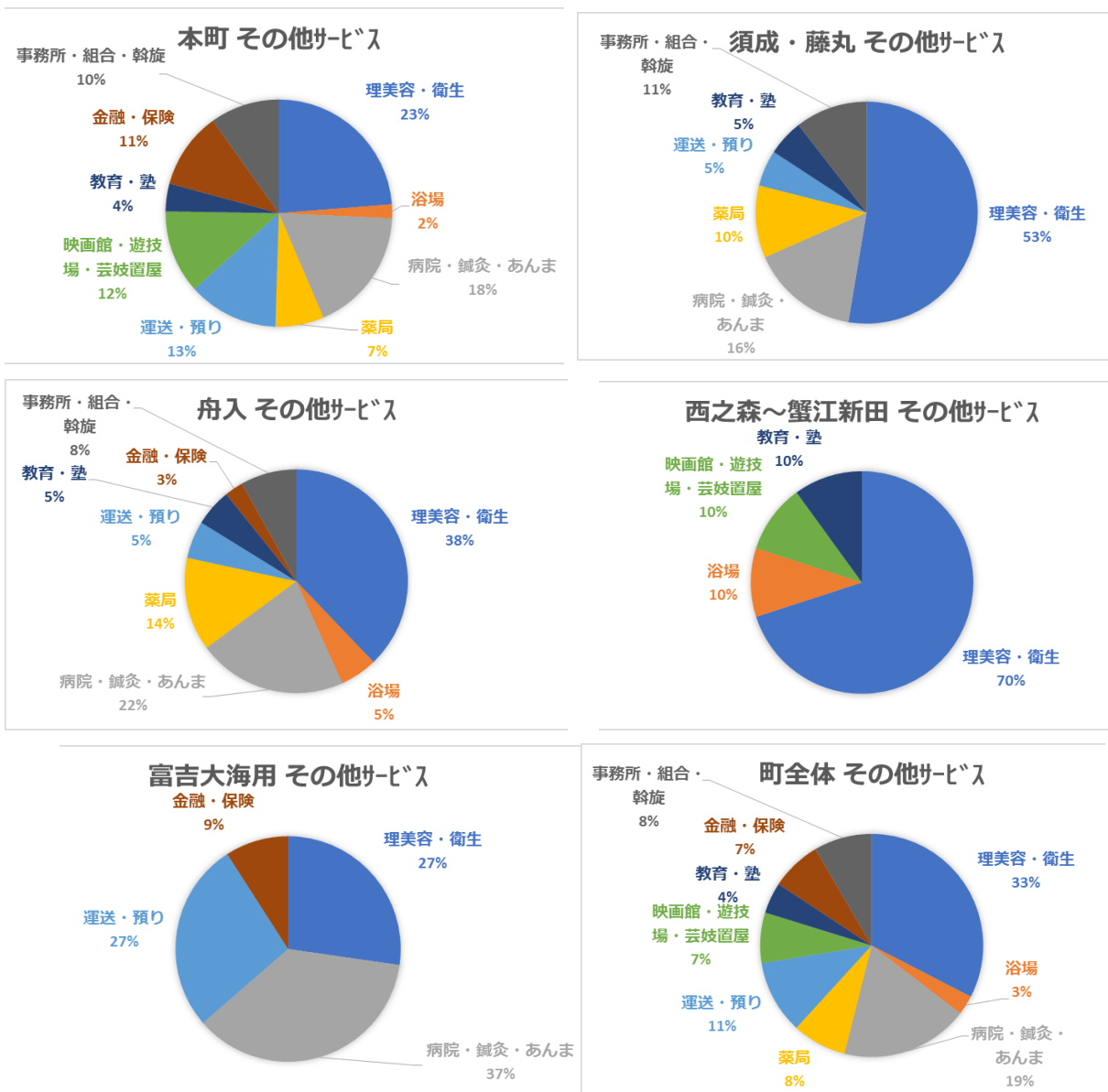


どの地区も半分以上の割合を占めているのが、住宅関連・不動産の101軒（住サービスの約59%）で宅地開発や住宅需要の増加を反映し、町の都市化が進んでいたことが分かる。都市化・住宅需要の拡大を背景に、町の構造が近代的に変化。生活基盤を支えるだけでなく、近代化の象徴となっている。住宅メーカーが幅を効かせつつあり、その系列に組み込まれるまでの移行期ではあるが、まだ、注文住宅も主流であり、地

元の大工を中心に左官、建具職人などの関連業者が、地域に根付いていた。それに伴い、電気・ガス・水道、新聞・印刷などの業者も存在した。

産業関連の分布についても同様で、下請け企業の集中化、系列化、海外依存は、まだ進んでおらず、町工場が日本の工業の下支えしていたことがよくわかる。旅館・ホテルは須成地区、舟入地区を除く地域に存在しているが、ビジネス客向けの旅館が駅近くや町の中心部に存在した。尾張温泉関連のホテルも建設されてきた。本町地区はバランス良く分類している。

(7) その他サービス



理美容・衛生（58軒）、病院・鍼灸・薬局（61軒）など生活支援型が多く、医療・衛生関連が充実していた。映画館・遊技場・芸妓置屋（13軒）と娯楽産業も一定の存在感を保っていた。昭和らしい町の文化的側面が感じられる。金融・保険（13軒）、事

務所・組合（15軒）で、経済活動の基盤を支える業種も整備されていた。生活の質を高める役割を果たしていたといえる。

地区別に見ていくと、理美容・衛生関連については全ての地区に存在した。浴場については、本町地区、舟入地区は風呂屋、西之森～蟹江新田地区は尾張温泉である。病院は西之森～蟹江新田地区以外の全ての地区で存在し、薬局は本町地区、須成・藤丸地区、舟入地区に存在した。本町地区に映画館、芸妓置屋、遊技場が存在し、西之森～蟹江新田は尾張温泉の演芸場が存在した。金融・保険は本町地区、舟入、富吉大海用地区に存在した。教育・塾は、まだ大手進学塾が進出前の段階で、算盤屋、習字屋、個人塾が花盛りの頃である。

4 町並みの変遷（地区別概要）

(1) 本町地区

江戸時代からの商工業の中心地で、川沿いに商人が蔵屋敷を構え物流の拠点（写真1、2）となり、寺社も立ち並んだ。特に昇平橋東にある蟹江神明社の秋祭（写真3、4、5）は大変盛大で賑わっていた。本町通り（写真6）には商家が建ち並び、生活必需品を買い求める近隣の村落からの客で繁盛していた。



写真1



写真2

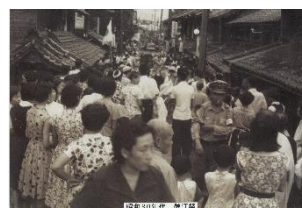


写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8

明治時代には役場（写真7）が設置され、町政の中心地になるとともに津島と並ぶ海部地域の中心都市となり、明治28年（1895）に関西鉄道（現JR関西本線）蟹江駅（写真8）が開業すると、本町商店街は戸田往還（現県道29号）より北へと拡大した。（写真9）昭和7年（1932）に蟹江川樋門（写真10）が完成し、昭和9年（1934）に国道1号線が現在のルートに変わって、昭和13年（1938）に関西急行電鉄（現近鉄名古屋線）蟹江駅（写真11、12）が開業するなど、物流交通の主力が水上から陸上へと変化し始めた。



写真9

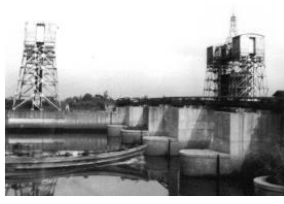


写真10



写真11



写真12



写真13



写真14



写真15



写真16

終戦直後には蟹江小学校の敷地の一部が売却されて、その跡地に近鉄蟹江駅前商店街（写真13）が誕生した。高度経済成長期に近鉄蟹江駅の停車本数が増加したこともあり、近鉄蟹江駅南側まで商店街が拡大していった。昭和34年（1959）の伊勢湾台風（写真14）により、南部工業地帯が壊滅的な打撃を受けたため、内陸地に大工場の拠点を移す傾向が高まった。工場誘致をした結果、本町商店街の東側（現ニューシティを含む本町五、六丁目）にも大工場が建設され、従業員向けの住宅や娯楽施設（写真15）が増えて躍動感あふれる若者の町へと変貌していった。鉄工場や建築関連の下請け業者、職人も多数存在して、ものづくり愛知の下支えをしていた。この頃、最盛期を迎えた本町商店街では、裏路地で営業していた店が本町通りと場所を交換してもらうなど100軒以上の商店が軒を連ねるようになった。金融機関や郵便局などもあったので、近隣市町村からも買い物客が訪れる何でも揃う便利な商店街（写真16）として名をはせた。

名古屋のベッドタウンとしての位置づけは、高度経済成長期を通して確固たるものになった。名古屋への勤務者の増加は、都会のデパートでの買い物やスーパーマーケットでのマイカーによる買い物を当たり前のスタイルとし、駐車場がない本町商店街から一番街商店街（写真17）に店舗を移す動きも出てきた。また、役場が現在地に移転したこともあり、さらに衰退に拍車をかけた。最近では、コンビニエンスストア



写真17



写真18



写真19

や名古屋近郊の大型ショッピングセンターでの購買層が増加し、商店街は衰退して

しまった。その頃、本町商店街の中心にあった蟹江家住宅（写真 18）が取り壊され、新本町線（写真 19）も開通するなど、かつての風景は一変し、閑静な住宅街として現在に至っている。

(2) 須成・藤丸地区

須成地区は早くから在郷町として栄え、近郊農村の中心として発展してきた。周辺地域は、尾張平野有数の米どころであり、富吉建速神社・八劔社を中心に行われる須成祭（写真 20）は、農業をベースとする地域に根付いた祭りであった。蟹江川堤防沿い（写真 21）とその周辺（写真 22）に商家が多く、生活必需品を揃えることができる町場を形成していた。

明治時代（1867～）になると、郡道沿いに多くの商店が立ち並ぶようになり、集落も南へと拡大していった。明治 28 年（1895）に関西鉄道（現 JR 関西本線）蟹江駅が開業すると名古屋に働きに出る人も多くなり、早くから兼業農家の比率が高かったのも大きな特徴である。

戦後になっても、集落が周辺に拡大する様子はあまりなかったが、昭和 42 年（1967）には、地区の東南に藤丸団地ができた。団地内にも商店はあったが、この頃から、周辺地域にも住宅が建ち並び、昭和 50 年（1975）には東名阪自動車道の蟹江インター（写真 23）が開通するなど、地域を越えた交流も盛んになり、廃業した商店が多くなった。



写真20



写真21



写真22



写真23

(3) 舟入地区

漁港を中心として町並みを形成してきた典型的な漁師町（写真24）である。明治期（1867～1911）には300軒程度が漁業を営んでいた。多くは農業との兼業であったが、専業農家も10



写真24



写真25



写真26

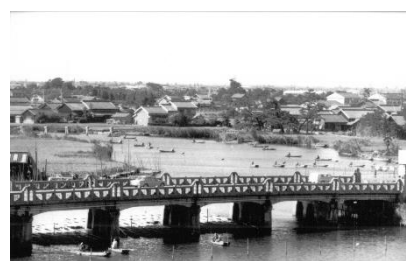


写真27

0軒程度存在したといわれる。大正になると、鍋田干拓事業により良好な漁場を失ったが、ウナギ養殖やシジミなどの貝採集等に活路をみだし、昭和時代（1925～）に入ると、海苔養殖を手がけ漁獲高を引き上げた。（写真25）しかし昭和34年（1959）の伊勢湾台風後、名古屋港防潮堤防がつくられるとそれも不可能となり、昭和37年（1962）に長い蟹江漁業の歴史を閉じた。漁港を閉じた後も、釣りブームの影響もあって漁船で海釣り客を伊勢湾沖に案内する（写真26）ことや佐屋川でのヘラブナ釣り（写真27）でにぎわうこともあったが、いまではその面影がない。



写真28



写真29

蟹江本町通りから続く本通り沿いには生活必需品が揃う商店街があり、蟹江川の西側には芝居小屋（写真 28）も存在した。二ツ屋橋東詰あたりの漁港周辺は特に繁栄しており、蟹江川左岸堤防通りにも両側に商店が建ち並んで、漁業関係の倉庫も多かったのも、漁師町の雰囲気醸し出していた。特に、蟹江川内部にせり出すように建てられた懸屋造りの住宅が軒を連ねる町並み（写真 29）は風情があったが、治水対策のための堤防工事で全て撤去されてしまった。

(4) 西之森～蟹江新田（近鉄線以北）

川西地区の蟹江川右岸から新町、西之森を経て、津島に向かう道路は古くから存在し、その路線上に家屋敷がひとかたまりになって寄り添って集落をつくっていた。純粋な農村ではあるが、生活雑貨を販売する商家も各集落には存在し、それ以上の買い物は蟹江本町か須成に出かけて調達していた。新町地区を中心にイチジク生産が広範囲に行われていたが、伊勢湾台風の塩害により廃れてしまった。今では白イチジクが貴重品として市場に出回っている。

昭和 30 年代（1955～）に全国的な温泉採掘ブームが到来し、「蟹江町水郷温泉計画」により温泉採掘が行われて尾張温泉（写真 30）が誕生した。温泉旅館、ホテル、大浴場、演芸ホール、遊園地、プール、花菖蒲園を併設したレジャーランド（写真 31）となり観光客が押しかけるようになった。有力企業や官公庁の保養施設もつくられ花火大会が行われ、相撲部屋が夏場所の宿所として利用する等、名古屋の奥座敷として一世を風靡した。今は温泉病院、日帰り入浴施設等に様変わりしたものの、昔日の面影を偲ぶことができる。

昭和 40 年代（1965～）には、西之森地区で農家の副業として屋敷隣接地に温室を併設し、ポットマムを栽培する農家（写真 32）が数多く存在した。これは伊勢湾台風以前にトマト栽培していたものの転用である。また、鹿伏^{かぶと}兎橋南には金魚の養魚場、佐屋川全体でボラ釣り場が設置されるなど、水郷の風情を色濃く残していた。この風景

も工場の進出や蟹江団地等の新興住宅地の拡大、西尾張中央道の開通、役場の新庁舎や学戸小学校の建設が進む中で、徐々に失われていった。



写真30



写真31



写真32

(5) 富吉・^{おおみよ}大海用地区

江戸時代の新田開発によって定住し、微高地や堤防上に集落ができ、その集落をつなぐ形で道路が完成した。大海用地区（写真33）もその一つである。集落内に生活必需品が揃う店（写真34）が建ち、古くは小舟で行き来していたものが、時代を経て道路が完備し陸上交通に移行した。（写真35）西尾張中央道が完成する前までは、純農村地帯（写真36）だったが、工場の進出や団地の建設等で、名古屋に働きに出る人が住むようになった。また、大規模農業経営と機械化により新田地帯が広がっているが、昭和40年代（1965～）より、少数の農家が近郊農業としてポットマムの生産をしている。



写真33



写真34



写真35



写真36

富吉地区は、富吉に近鉄の車庫ができ、その後、昭和39年（1964）に富吉駅（写真37）が開設され、駅前に富吉団地が建設されたことにより、商店街も含めて著しく発展した。



写真37



写真38

駅南側にも公団住宅（写真38）が建設されるなど、名古屋市的一大ベッドタウンを形成した。後に富吉温泉や蟹江高校も建設されて活性化されたものの、今はなく、商店街も多くの店がシャッターを閉めている。

5 おわりに

昭和42年(1967)、高度経済成長の波が全国を駆け抜ける中、蟹江町には1,221軒の自営業が息づいていた。名古屋市の外縁に位置しながら、独自の生活文化を保ち、商いの灯が地域の隅々まで広がっていた。

最も多かったのは、金物店・燃料店・日用品店などの住(物販)391軒。プロパンガスや石油、薪炭を扱う店も多く、暮らしの基盤を支える商いが町のあちこちに根を張っていた。冬の寒さをしのぐ燃料の配達、建材を積んだトラックの音。生活の営みを支える音が町に響いていた。続いて、食料品店292軒。八百屋、魚屋、米屋、豆腐屋など、食卓を支える店が各地域に点在し、買い物かごを手にした人々が行き交う光景が日常だった。冷蔵庫が普及しきっていない時代、食料品店は町の“台所”として欠かせない存在だった。一方で、喫茶店や食堂などの飲食サービス87軒は、本町を中心ににぎわいを見せた。繁華街、役場や駅周辺には人が集まり、仕事帰りの一杯や家族での外食が、昭和の新しい生活スタイルとして広がりつつあった。

町の中でも、地域ごとに表情は異なる。本町は587軒と町全体の半数近くを占める“商業の中心地”。須成は162軒で水辺の暮らしを支える“自給のまち”。舟入は236軒で“生活物資の集積地”として最大のにぎわい。西之森～蟹江新田、富吉・大海用は“静かな生活圏として堅実な商い”が点在した。こうした地域ごとの個性が重なり合い、蟹江町は“暮らしのすべてが町内で完結する”自立した町として発展していた。商店の数だけ、家族の暮らしがあり、地域のつながりがあった。

昭和42年の蟹江町は、派手な繁華街こそないが、生活の匂いが濃く、商いの灯が温かくともる町だった。1,221軒の商いは、町の人々の暮らしを支えるだけでなく、昭和の蟹江町の風景そのものを形づくっていた。

今では姿を変えた場所も多いが、当時の商店の記憶は、町の歴史の中に確かに息づいている。

【参考文献】

蟹江町企画監理室企画課『蟹江町制100年記念写真集 写真に見る蟹江町100年の歩み』(蟹江町、1989年)

蟹江町史編さん委員会『蟹江町史』(蟹江町、1973年)

蟹江町教育委員会『須成祭総合調査報告書』(蟹江町教育委員会、2009年)

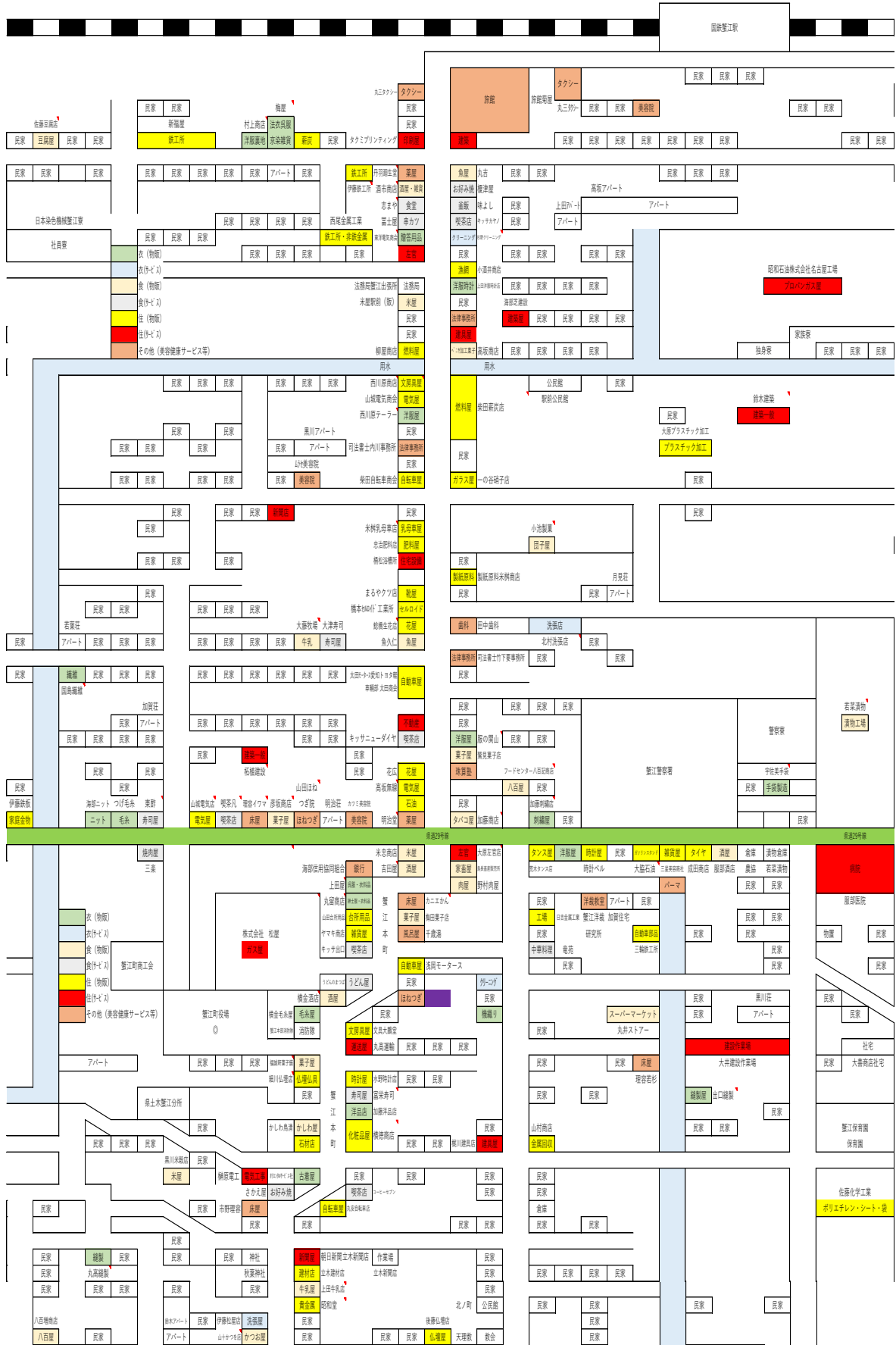
公共施設地図株式会社『東京都 大阪府 名古屋 全住宅案内地図帳』(永井芳雄、1969年)

『蟹江町商工会名鑑』(蟹江町商工会、1978年)

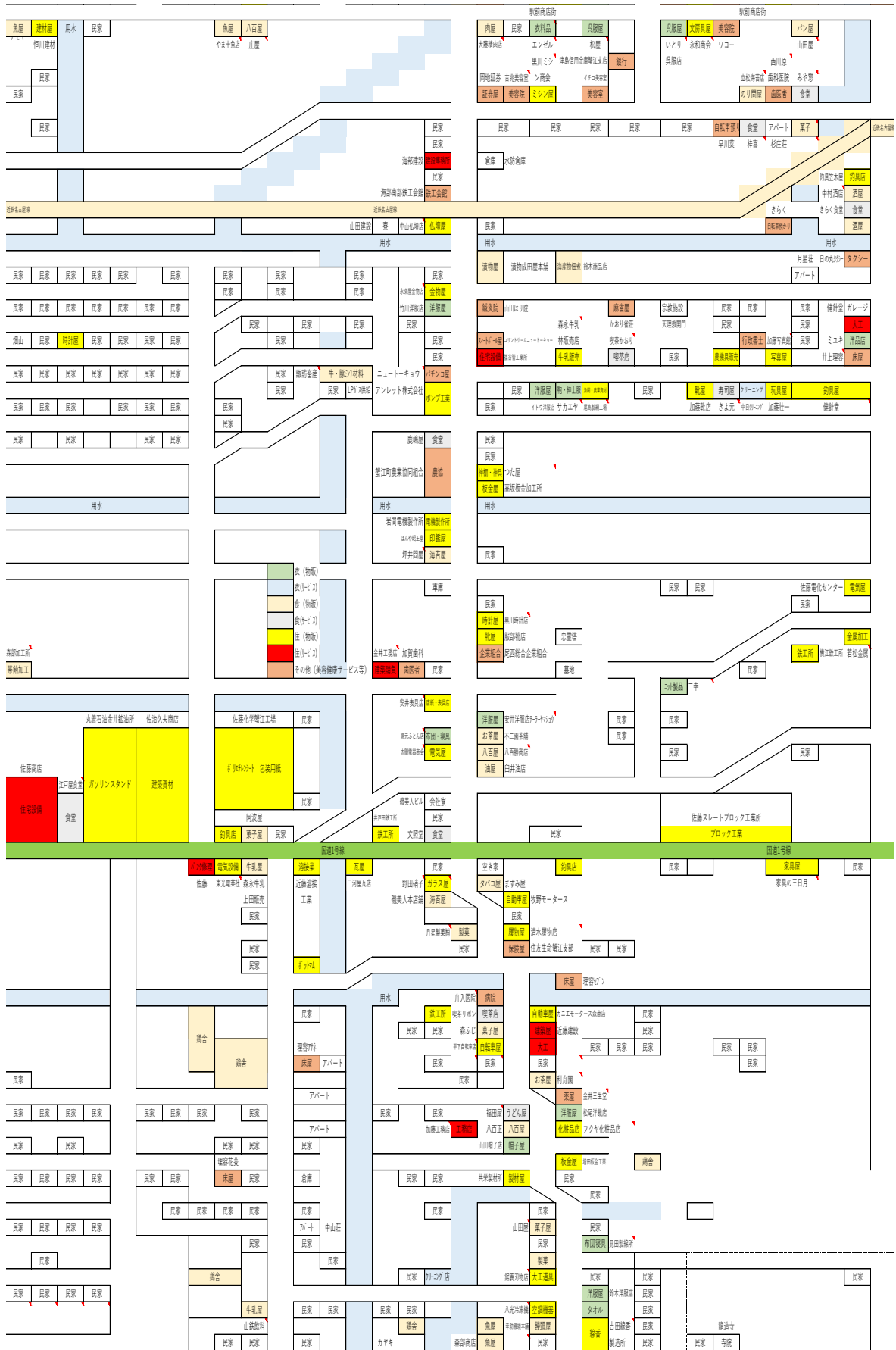
「蟹江町商工観光案内図」(日本観光商工宣伝協会、1962年)

デジタル復元地図（一部抜粋）

(1) 国鉄（現JR）蟹江駅～蟹江町役場（現中央児童公園）



(3) 近鉄名古屋線～国道1号線南



蟹江家伝来の甲冑について

花井 昂大

概要

蟹江町歴史民俗資料館では、令和6年(2025)8月19日、蟹江浩嗣氏より蟹江家に伝来する甲冑の調査依頼を受けた。

まず蟹江家の概要を述べる。蟹江家の祖先は鈴木姓を名乗り、天正12年(1584)の小牧・長久手合戦における「蟹江合戦」で活躍した。その後、江戸時代には蟹江町に居を構え、新田開発によって財を成した家柄である。当主は代々「鈴木四郎左衛門」を名乗り、尾張徳川家との関わりも深かった。明治時代には姓を「蟹江」へと改め、蟹江町長や貴族院議員を輩出し、昭和時代にも再び町長を務める人物を出すなど、蟹江町の歴史に大きく寄与してきた家である。当館には、蟹江家から寄贈・寄託された資料が多数収蔵されている。

今回の調査は、平成25年(2013)に実施した蟹江家甲冑調査に引き続き、甲冑武具研究家・三浦一郎氏の協力・監修を得て、9月3日および18日の2日間にわたり実施した。その結果、対象資料は大きく(1)紺糸威二枚胴具足、(2)本小札萌黄糸威丸胴、(3)その他、の三つに分類できることが確認された。

本報告では、これら三つの分類に基づき、それぞれの資料について項目を立てて紹介し、構造的特徴について整理する。

(1) 紺糸威二枚胴具足 江戸時代後期 (写真1)

紺糸威は、全体を藍に染めた紺糸で威したものである。威は「緒通し」から生じた語であり、小札板(鉄や革で作った小札と呼ぶ小片を漆で塗り固めた板)を上下に繋ぎ留めることをいう。

なお具足は当世具足の略称である。「現代の甲冑」という意味であり、甲冑の主要部位である三物(兜・胴・袖)に面具・籠手・佩楯・臈当等の小具足とこれらを収める櫃(箱)を一式とする。隙間なく塞ぐという意味から「具に足りる」の字を当てて名付けられた。



写真1

兜

ろくじゅうにけんすじかぶと
六十二間筋兜（写真2）。筋兜とは、鉄板の矧合部分に立てた筋を強調した兜のことである。六十二間は、六十二本の筋があることをいう。鞆（兜の側面から後部にかけて覆う部位）の左右両端を正面に向けて折り返した吹返には九曜紋の透かしがあり、眉庇（兜正面に付く庇）には蟹江家の家紋である横木瓜紋の蒔絵が施されている。



写真2

にちりんまえだて
日輪前立。兜の正面には日輪を模した装飾が掲げられている。

胴

きりつけないものにまいどう
切付板物二枚胴。切付板物とは、頭を小札のかたちに切り、本当の小札で作った小札板にみえるように漆を盛り上げて作った板物のことである。二枚胴は、当世具足の胴の形式の一種であり、前後二枚で形成された胴の形式である。



写真3-1

ちちくびのかん
胸の左右に打たれた鑲は乳首鑲と呼ばれ、本来は左胸にあつさいはいづけのかん
た采配付鑲（采配の紐を結ぶための鑲）が時代とともに変化したものである（写真3-1）。



写真3-2

あげまきかん まちうけ
背面には総角鑲と待受がある（写真3-2）。総角鑲は総角（中央を石畳に組み、蜻蛉十文字に結んだ紐）を結ぶための鑲であるが、総角は欠如している。待受は旗指物（当世具足の付属物の一種である小型の旗）を立てる受筒を下から支えるための箱状の金具である。

草摺

くさずり
胴の下部に下がる小札板。四段の小札板が七枚ある（写真4）。なお当世具足においては、六間と七間の草摺が多いことも特徴である。



写真4

袖

つぼそで
七段下がり壺袖（写真5）。袖は三物の一つであり、肩先から上膊部を守る。壺袖は、裾に向かって細くなり内側に湾曲する形状の袖をいう。



写真5

面具

め したぼお
目の下頬（写真 6）。面頬当（近世の面具）の一種。主に顔面を守るための小具足であり、目の下全体を覆う形状である。

籠手

さんぼんしのごて
三本篠籠手（写真 7）。籠手は上腕から前腕、手の甲までを守るための小具足であり、下膊に三本の篠がある。篠とは細長い金具のことで、篠竹に似ていることから名付けられた。

佩楯

いたはいだて
板佩楯（写真 8）。佩楯は大腿部を守るための小具足である。板佩楯とは、大きな伊予札（わずかに重なる小札）を革で綴り、漆で塗り固めて一枚の板状にしたものを指す。



写真6



写真7



写真8

臙当

しちぼんしのすねあて
七本篠臙当（写真 9）。臙当は臙を守る小具足である。七本の篠がある臙当である。上部には膝を守る たてあげ 立拳が付く。内側の下半分には漆を塗った革が当てられている。この部分を かこずり 鉸具摺といい、騎乗する上で都合がよいため考案されたものである。

櫃

よこもっこうもん くそくびつ
横木瓜紋具足櫃（写真 10）。具足を収めるための箱である。四方に金箔を押して、蟹江家の家紋である横木瓜紋が描かれている。



写真9



写真10

ほん こ ぜねもえ ぎ いとおどしまるどう
(2) 本小札萌黄系威丸胴 江戸時代中期 (写真11-1)

本小札は、切付板物に対して本当の小札で作ったことを強調した語であり、全体を萌黄系で威している。丸胴とは当世具足の胴の形式の一種である。前胴から後胴にかけて一続きに作られ、着脱に際して小札の足搔きによって開閉する。

肩上(肩にあたる部位)の先端にある杏葉には、菊水紋の据文(小札・金具等に打つ飾金物)が施されている(写真11-2)。

右腰部の鑲は、胴の下部を引き締める繰締緒を通すための鑲であり、高紐(肩上と胸板を繋ぐ紐)の鞋とともに象牙製である(写真11-3)。

また背部には背旗・馬印等を立てるための合当理がみられる(写真11-4)。



写真11-1



写真11-2



写真11-3



写真11-4

草摺

切付板物七間五段下がり(写真12)。胴本体が本小札で作られているのに対して、草摺は切付板物である。また七間五段下がりの草摺は、当世具足においてもっとも多くみられるかたちである。



写真12

もえ ぎ いとおどしくる わ
萌黄系威曲輪

首まわりから胸元を守る小具足。喉巻と呼ぶ主要な金具が立襟のように作られており、その下部には胴と同じ萌黄系威の小札板が下げられている(写真13)。

つばめほお
燕頬

顎から両頬にかけて覆う面頬当。燕頬の呼称は、形がツバメの尾羽に似ていることに由来する(写真14)。

えりまわし
襟廻

首まわりを守る小具足。胴の内側に付けて用いる。襟の部分はきっこうがね亀甲金（正六角形の板）をりんず いえち萌黄色の綸子の家地で包んで作られている（写真15）。



写真13



写真14



写真15

きっこうひたいあて
亀甲額当

額を守る小具足的一种。亀甲金を萌黄の綸子で包んで作られている。他の小具足と同一の色目であることから対のものと考えられる（写真16）。



写真16

ふくべごて いっそう
瓢籠手 一双

「瓢」の文字どおり、上膊と下膊にひょうたん瓢箪の形の金具がある（写真17-1）。襟廻・亀甲額当と同じ家地であることから一作と思われ、手甲には横木瓜紋の据文が施されている（写真17-2）。



写真17-1



写真17-2

(3) その他

くろいとどしに じゅうよんけんほしかぶと
1) 黒糸威 二十四間星兜 江戸時代後期

二十四間の筋がある兜である。星兜とは鉄板の矧合に使うかしら鋌の頭（星）が鉢の表面に突き出た兜をいう。中世から



写真18

近世にかけて主流をなす兜である。頭部を守るだけでなく、突き出たかたちの眉庇が付いており、顔面の防御にも優れている。正面には前立を掲げるための祓立はらいだてが付く。鞆を威す黒糸には劣化がみられるが、これは糸を染める際に酸化しやすい鉄汁を用いたためである（写真18）。

2) 試し兜ひねのずなりかぶと（日根野頭形兜） 江戸時代中期

正面にへこみがみられるが、これは実戦で受けたものではなく、堅固さを試すために鉄炮の標的にされた、あるいは弾痕に似せて意図的に傷付けられたものと思われる。堅固さを強調する江戸時代の商法の一つと考えられる（写真19-1）。

日根野頭形兜は、日根野備中守弘就（1518～1602）が奨励したことから名付けられた。主に両側面と上板の三枚の板で構成され、鉢のかたちが人の頭に似ていることから名付けられた。頭形兜は星兜・筋兜に比べて簡単な作りであり、たくさん作ることが可能であること、敵の攻撃に対してすべりやすいという2つの利点を持っている（写真19-2）。



写真19-1



写真19-2

3) 前立まえだて

兜の正面に掲げる装飾の一種。左より隅切角紋前立すみきりかくもんまえだて（2点）（写真20-1、20-2）、横木瓜紋前立よこもっこうもんまえだて（写真20-3）、縁半月前立くりはんげつまえだて（写真20-4）、袋（前立入れ）（写真20-5）。



写真20-1



写真20-2



写真20-3



写真20-4



写真20-5

4) 亀甲額当きっこうがね 江戸時代後期

額を守る小具足の一種。亀甲金を白麻の家地で包んで作られている（写真21-1）。甲冑装着像に像主が装着する様子が認められる（写真21-2）。



写真21-1



写真21-2 (鎌島朋子氏所蔵)

5) 目の下頬 安土桃山時代

当該品は「半頬はんぼお (両頬から顎にかけて深く覆う中世の面具)」に鼻部分を付加して「目の下頬」にしたものである (写真 22-1、22-2)。半頬から面頬当に移る過渡期 (天正年間頃) の作と比定され、江戸時代の目の下頬に比べて奥行があり、異質のものにすらみえる感がある (写真 22-3)。熊毛による黒くて長い髭が印象的である。



写真22-1



写真22-2



写真22-3

6) 杏葉 一双 江戸時代後期

袖の代わりに肩先に付ける、あるいは肩と胸板の間のできる隙間を塞ぐためのものである。菊水紋の据文が施されている (写真 23)。



写真23

7) 亀甲筏鎖佩楯きっこういかだくさりはいだて 江戸時代後期

主要部分は鎖で覆われており、鎖の合間に亀甲筏と呼ばれる正六角形の金具が散らしてある (写真 24)。

8) 伊予佩楯 江戸時代後期

伊予佩楯は、手軽で足さばきがよいことから当世具足に多くみられる（写真 25）。



写真24



写真25

9) きゅうほんしのすねあて 九本篠臈当 江戸時代後期

九本の篠がある臈当である。上部に亀甲立拳。内側下部には栗色馬革の鉸具摺革が付く（写真 26）。

10) きんびやくだんぬりえっちゅうすねあて 金白檀塗越中臈当 江戸時代前期

金白檀塗とは、金箔を押しした上に朱合漆しゅあいうるしを塗ってゴールドメタリック状にした塗り色である。越中臈当とは家地のない篠臈当をいう。また内側の篠の下部を欠いて鉸具摺しゅあいうるしにしている（写真 27）。

11) ゆがけ 弓懸 江戸時代後期

戦陣で用いる韋製の手袋。弓を射る際に弦つるで指を傷付けないようにするものである（写真 28）。

12) さいはい 采配 江戸時代後期

指揮具の一種。軍陣にて打ち振り、従者を指揮するのに用いる。柄の先には、厚紙えを細かく切った総かさが付いている（写真 29）。



写真26



写真27



写真28



写真29

13) ^{ぐんせん}軍扇 江戸時代後期

陣中で帯用する扇である。表は金箔地に朱色の日輪、裏には朱地に金色の日輪が描かれており、十本の扇骨は黒漆塗りとなっている（写真 30-1、30-2）。



写真30-1



写真30-2

14) ^{うけづつ}受筒（2点） 江戸時代

当世具足の付属物の一種。指物と呼ばれる小型の旗を立てるための竿を背に差し取り付ける木製の筒である（写真 31）。

15) ^{たび}足袋 江戸時代後期

足の爪先から足首までを覆い包む韋製の履物（写真 32）。

16) ^{よこもっこうもんがもち}横木瓜紋長持

大型の収納具。正面と背面には金箔押しで、横木瓜紋が描かれている（写真 33）。



写真31



写真32



写真33

【調査協力・監修】

三浦一郎

【参考文献】

三浦一郎・高柳俊之「検証 面具の発生とその変遷」(『甲冑武具研究』第123号、1998年)

三浦一郎・永都康之『日本甲冑図鑑』(新紀元社、2010年)

三浦一郎作成「甲冑用語集」

蟹江家伝来の目の下頬

三浦 一郎

はじめに

令和6年(2024)9月3日、同18日の2日間にわたり、蟹江町歴史民俗資料館において学芸員花井昂大氏の立ち合いのもとで、尾張国海東郡の名士であった蟹江家(旧鈴木四郎左衛門家)に伝わる武具甲冑を調査させていただいた。同家に伝来した数多くの遺物の中で筆者が特に注目したのが主題の「目の下頬」である(画像1参照)。目の下頬は、甲冑の小具足である「面具」の一種であり、すなわち目の下全体を覆う防具のことである。



画像1 目の下頬

本稿において蟹江家蔵の目の下頬(以下当該品)について述べる前に「面具」の形式的な区分とその歴史の変遷について述べることにする。

それは、「半首」「半頬(頬当ともある)」、そして最も一般的な「面頬当」の三種に分けられる。これらは、各時代の戦闘様式に伴う兜・胴・袖・小具足等の変遷における相関関係によって変化発展したものと考えられる。

半首

現在のところ面具の最古の形式といわれているのが「半首」である。これは平安・鎌倉時代の軍装を描いた『前九年合戦絵詞』『平治物語絵詞』等の絵画史料に散見されるものの、当時の遺物は現状において確認されていない。ゆえに、その多くは江戸時代後期の復古調において製作されたものである。



画像2 半首

画像2は、これらの総合的な観点から甲冑師の故佐藤敏夫氏が製作したものである。その形状は、額から両頬にかけて深く覆う。すなわち防御の重点が顔面の上部にあることを示している。

中世初頭(平安・鎌倉時代)においての戦闘は弓矢を用いる「射戦」が主体であり、その防御姿勢として敵側に兜を傾けることが行われた。ゆえに飛来する矢から顔面を守るために防御の主体は額から両頬でなければならなかったのである。半首の形状は、まさに当時の戦闘様式を彷彿させるものといえる。

半頬の発生

源平時代に盛んに用いられた半首であるが、鎌倉時代後期に描かれた『蒙古襲来絵詞』にはほとんど見られないのである（同期成立と伝えられる『春日権現霊験記絵巻』に一例のみ描かれている）。

このとき襲来した蒙古軍と鎌倉武士との戦闘法に大きな違いがあったと伝えられる。すなわち伝統的な戦闘法（射戦）を望む鎌倉武士は、集団戦を主とした蒙古軍に翻弄されたのである。これを契機に我が国の戦闘様式は大きく変わる。つまり弓矢による「射戦」から太刀・薙刀による「打物」へと変り、これに伴い兜の形状も変わったのである。

すなわち腕の運動を考慮した結果から、肩まで下がる^{すぎなりじころ}杉形鞆から笠状に大きく開いた^{かさじころ}笠鞆に変わったのである（画像3・4参照）。このため鞆の下から顔面が露出することとなり、これを守るために顎から両頬にかけて深く覆う「半頬」が生まれたと考えられる。つまり、この時点で顔面の防御の視点が上下反転したのである。



画像3 杉形鞆



画像4 笠鞆

半頬の流行とその特徴

そして、室町時代が下ると兜の小型化と軽量化が求められ、鞆の段数が五段から四段、三段、二段、一段と減少する傾向がみられる。そこで、さらに顔面の露出度が増すこととなり、半頬が大いに用いられたと考えられる。その遺物の多くが室町時代後期から末期のものであり、半頬が流行したことを如実に示している。

これらの形状は、目・鼻の線（ライン）に沿って顔面を広く覆い、その側面には耳に達するほどの深い奥行きが感じられる。両頬には縦に長い「緒便金」^{おだまりがね}を配し、顎の下には太くて長い「露落の管」^{つゆおとし くだ}がある（画像5参照）。また稀に表面を鉄錆地^{かなさびじ}あるいは錆塗り^{さびぬ}にしたものもあるが、多くは表面・裏面ともに黒塗りである。



画像5 半頬

須賀の発生と半頬の変化

室町時代の絵画史料である『二人武者絵』『結城合戦絵巻』には、顔面と胸元の防御を兼ねて「半頬」と「喉輪^{のどわ}」を併用する様子が描かれている(画像6参照)。

そして甲斐武田氏が先方衆(武田氏に帰属する占領地の領主)の市河氏(奥信濃を根拠とする国人領主)に宛てた軍役定書には、騎兵に対して「甲、喉輪、手甲、面頬当(頬当)、脛楯、差物」と具体的に名称を挙げて指示した上で、この内の一品も欠かしてはならないとある。これは、永禄12年(1569)に発給されたものであり、つまり室町時代のおわりごろまで、先の絵画史料にみられるように「半頬」と「喉輪」を併用していたのである。



画像6 『二人武者絵』にみる半頬

そこで、興味深いのが春日大社(奈良県奈良市)蔵の喉輪仕立の半頬である。これは、半頬の下部に段違いに作った下付^{さげつけ}と呼ぶ部分に、直接蝠蝠付章^{もりこうづけがわ}を綴じ付けて垂^{たれ}にしているのである。おそらく室町時代のおわりごろのものと思われ、この時点で半頬と喉輪を合体させ、面具に須賀^{すが}と呼ぶ垂が付くようになったのである。ちなみに清水神社(岐阜県揖斐川町)蔵の稲葉一鉄(1516~88)所用と伝わる県文「茶糸威胴丸」に付く半頬には曲輪仕立^{くるわしたて}の須賀がみられる。

これと、ほぼ同時期に半頬に防御と装飾を兼ねた鼻が付くものも現れ、さらに源久寺(山口県山口市)には半頬に額金^{ひたいがね}を合体させた総面^{そうめん}もみられる。加えて白あるいは黒の髭、あるいは金銅製の歯などの装飾を施すものもみられるようになる。

半頬から面頬当への変化

これまで述べてきたように「半首」「半頬」が中世の面具であるのに対して「面頬当」は近世の面具の総称である。これは、総面を除けば半頬と同じ形態を示す。すなわち防御の重点が顔面の下部にあるからである。また鼻がない面頬当を半頬とも呼ぶが、その使用年代あるいは形状に大きな違いがあるので明確に区別するべきである。



画像7 当世鞆(側面)

これについて述べる前に兜の形状、特に中世と近世の鞆の形状について確認しておきたい。すなわち戦いが射戦から打物に変わったことにより杉形鞆から笠鞆に変わる。こ

れは、基本的に中世末まで変わることはなかった。ゆえに首筋の防御の観点から顔面を深く覆うために半頬には大いなる奥行きが感じられる。すなわち面頬当にはそれほどの奥行きが感じられず、いずれも半頬に比べてやや平面的にみえる。



画像8 日根野鞆（側面）

では、なぜ面具に奥行きがなくなったのであろうか。それは、攻撃兵器が太刀・薙刀から槍・鉄炮やり てっぽうに変わったことにあると思われる。すなわち、こうした一点集中型の攻撃に対して、肩から首筋までの隙間を塞ぐために鞆の形状が変わったと考えられるのである。これと同時に、さらなる兜の小型化と軽量化を求めた当世鞆・日根野鞆とうせいじころ ひねのじころが生まれる（画像7・8参照）。つまり肩まで下がる当世鞆・日根野鞆の仕様により顔面の露出度が減った。ゆえに面具も正面にのみ防御の重点を置くようになったのである（画像9参照）。



画像9 江戸時代の目の下頬

こうした傾向は、おおよそ天正年間（1573～92）の終わりごろからみられ、慶長年間（1596～1615）になると面具の主流は面頬当になったと考えられる。

蟹江家伝来の目の下頬についてのまとめ

以上、日本甲冑の変遷に沿って面具の変遷について述べてきた。現状において当該品は蝶番ちょうつがいの破損のため鼻部が外れている。その正面は目・鼻の線に迫るほど広く覆い、側面には深い奥行きが感じられる。また両頬に設けた縦に



正面

側面

画像10 蟹江家伝来の目の下頬

長い緒便金、あるいは顎の下の露落の管など、すべてにおいて半頬の特徴と一致する（画像10参照）。

そして鼻部も直線的で素朴な作柄をみせることから当初からのものと思われ、ゆえに当該品の名称を「目の下頬」としたのであるが、一般的にいう「面頬当に属する目の下頬」ではなく、「半頬に鼻が付加した目の下頬」との見解に達したことを理解していただきたい。

また稀にみる熊毛による長い髭は特筆すべき点の一つといえる。そして下付には二孔

一組の小穴が三ヶ所あることから、おそらく当初は板物製いたものせいの小型の須賀が付いていたのであろう。

当該品は、管見のかぎり蟹江家に伝わる甲冑資料の中で最も古く、その製作年代はおよそ天正年間ごろと比定される。これは、同家が最も活躍した時期と一致する。さらに同家には多くの文書が残されているので、その解読により当該品との関連の予想をも示唆される。

最後になるが、今後ますますの蟹江町歴史民俗資料館の研究の進展とその成果に期待するものである。

【画像】

1. 蟹江町歴史民俗資料館提供。
2. 筆者撮影。
3. 加藤鞆美製作。筆者撮影。
4. 加藤鞆美製作。筆者撮影。
5. 豊田勝彦氏提供。一部筆者加工。
6. 鈴木敬三編『古典参考資料図集』（國學院高等学校 1988年）転載。
7. 筆者撮影。
8. 筆者撮影。
9. 蟹江町歴史民俗資料館提供。
10. 蟹江町歴史民俗資料館提供。

【参考資料】

山上八郎『日本甲冑の新研究』（山上淑子 1928年）

山岸素夫・宮崎眞澄『日本甲冑の基礎知識』（雄山閣 1990年）

鈴木敬三編『有識故実大辞典』（吉川弘文館 1996年）

三浦一郎・高柳俊之「検証 面具の発生とその変遷」（『甲冑武具研究』123号 1998年）

三浦一郎「面具 - 師匠佐藤敏夫の遺品から (2)」（『甲冑武具研究』204号 2018年）

蟹江町歴史民俗資料館年報 第46冊

発行 令和8年(2026)3月20日

蟹江町教育委員会

編集 蟹江町歴史民俗資料館

〒497-0040

愛知県海部郡蟹江町城一丁目214番地

TEL 0567-95-3812

